

社会福祉法人 そうそこの杜

**2021年度 事業報告書**

# 目次

## 1. 法人全体

## 2. 第2種社会福祉事業

- － (1) 相談支援（特定・一般） 「地域生活支援センターあ・うん」
- － (2) 就労移行支援・就労定着支援・就労継続支援B型 「今福事業所」
- － (3) 就労継続支援B型 「座座」 ※新規立ち上げ
- － (4) 就労継続支援B型 「つむぎ館」
- － (5) 就労継続支援A型 「Kawasemi」 / 就労継続支援B型 「杜のShokudo」 ※多機能事業所
- － (6) 生活介護 「庵」
- － (7) 生活介護 「げんげん」
- － (8) 生活介護 「創奏」
- － (9) 共生型生活介護 「いま福の家」
- － (10) 児童発達支援・放課後等デイサービス 「伝」
- － (11) 居宅介護・重度訪問介護・同行援護 / 移動支援 「ホームヘルプセンターとことこっと」
- － (12) 短期入所 「添」
- － (13) 訪問介護 「ホームヘルプセンターとことこっと」
- － (14) 地域密着型通所介護・介護予防型通所 「いま福の家」 ※内容は2-(9)に含む
- － (15) 大阪市地域子育て支援拠点事業「一般型（ひろば型）」 「杜のこうさてん」

## 3. 公益事業

- － (1) 居宅介護支援事業 「地域生活支援センターあ・うん」
- － (2) 大阪市障がい者就業・生活支援センター事業「北部地域障がい者就業・生活支援センター」
- － (3) 地域生活サポート事業

## その他報告事項

- － (1) ヒヤリハット・事故報告
- － (2) 防災委員会活動方針
- － (3) 高齢者の未来を考える会活動方針

## 1. 法人全体

### はじめに

今年度も新型コロナウイルスの猛威にさらされた1年であったが法人においては、徹底した対策が功を奏した結果、大きな混乱はなく乗り越えることができた。特に年が明けた以降の3カ月間はオミクロン株の流行に対して子どもからの感染や濃厚接触等家庭内感染が増え休養を余儀なくされたスタッフが目立ってきた。

また、10月には法人創立20周年の講演会を実施した。元々年度当初に企画していたが城東区民ホールの利用がコロナの影響でのびのびになっていたが何とか開催することができた。

今年度の新たな動きとしては、想の移転（嶋野に土地建物を購入）、今福事業所の移転、また嶋野東で土地を購入し次年度中に完成予定（びんの郷）3階建ての建設の計画を行った。

事業運営については、人手不足の解消のために外国人労働者の採用に踏み切り、社会人1名、語学留学学生7人を雇用した。留学生7人については都合3年間かけて介護福祉士の資格取得を目指すことでじっくり育てていく方針で採用している。

また、サービス事業者とは一線を画す意味で今後の福祉の在り方、障害福祉や地域福祉の在り方を法人なりに考えていくために、外部講師（アドバイザー）をお願いしスタッフへの教育で社会福祉の在り方や利用者支援のための権利擁護の視点や法人の方向性についても新人の研修を中心に行なった。

未だに城東区において就労支援B型事業や放課後デイの新規開設があり、利用者の確保についても厳しい現状があるものの何とか新規の利用者をなんとか確保することができた。以上の結果で、事業収支活動においては全体で黒字計上をすることができ若干の蓄えをすることができた。

### (1) 法人設立20周年記念事業

#### ①記念講演会の実施

10月2日（土曜日）に城東区民ホールにて開催。この時期に約300名の参加者があり、講師は、高岡健さん・関正樹さん（児童精神科医）、本谷研二さん（精神科医）の3名による講演とその後に大熊章夫さんの司会で關宏之さん、そうそうの杜スタッフ2名と3名の講演者を加えシンポジウムを開催した。コロナの関係で開催が危ぶまれる中、内容の濃いものであった。

#### ②記念グッズの作成

利用者、スタッフ・その他関係者用のジャンパー、ポロシャツを作成し利用者も含めて全員に配布した。

#### ③記念誌の発行

記念誌については、500部ほど作成し利用者、関係者に配布、内容は歴代撮りためていた行事等の写真を中心に構成し、20年間を振り返ったものであった。

(2) 新型コロナウイルス感染症について 資料① 法人内部規定

年度中に 24 名が罹患、利用者・スタッフがほぼ半数ずつ複数の部署に分かれているので一つの事業所で 1 週間閉鎖したほかはクラスターが発生し事業が回らないという状況にはならず特に大きな影響はなかった。

また、緊急事態に備えて Kawasemi 3 階をレッドゾーンに指定して隔離したが計 4 名 3 回の使用であった。

当初から、法人内のマニュアルを何回も練り直しその都度、国や行政の情報や指針をもとに法人としても独自の判断も踏まえて対応してきた。

前記したようにオミクロン株が優勢になり、年を越してから徐々に、学校や園などに通う児童からの家庭内感染や濃厚接触で自宅待機することが増えてきた。

全体的には、感染による重症化するケースはなく後遺症も特に影響が出てくるケースはほとんど見受けられなかった。

(3) 事業から

①座座/座の完成に伴い、2～3 階に重症心身障害者の住まいを設け、医療的ケアのある人の入居をスタートさせた。候補者は 3 名（いずれも女性）で 3 階に入居した。

1 名は順調に生活をスタート、もう 1 名は年度途中から徐々に泊まる回数を増やし年度終りには週 3 日の宿泊ができるようになった。もう 1 名は残念ながら嚥下の問題があり、病院にて胃瘻造設の手術をして順調にスタートを切ったかに見えたが肺炎を併発し、現在はまた在宅に戻っている。

2 階に関しては、医療的ケアの必要な男性の候補者が出てこず、また体制的にヘルパーの配置が完全にできないことで年度内の入居にはならなかった。

②事業所や住居の移転について

今年度も法人内事業所の城東小学校下への移転、住居（地域生活サポート事業）の移転を進めてきた。

今福事業所⇒東中浜

想・綾 ⇒ 嶋野東

基本的に嶋野地域に資源を集約することで法人間の事業の共有ができるようにと意図的に集めてきた。

●嶋野地域…法人本部、伝、杜の Shokudo (Lian の杜、杜のざっかやさん、本と窯)

創奏、つむぎ館、座座、添（短期入所）杜のこうさてん、

地域生活サポート…綾、想

●聖賢地域…とことこっと、Kawasemi、庵

地域生活サポート 縁、希、昂等

●今福地域…いま福の家



\*\*\*\*\*

## 2. 利用者の状況

今年度の全体の新卒の利用者（新卒・支援学校 4 名、専修学校 1 名）は 5 名を確保した。昨今の事業所の増加を考慮すれば、前年度と同じ実績となりそれなりの成果と考えざるを得ない。城東区においては新規事業者（就労継続支援 B 型）の立ち上げが続く中で、利用者確保がさらに難しくなっている。

また、懸案である利用者の希望の多い車での送迎について、マイクロバスの運行による送迎を丁寧に広げていけば利用者増が可能だという観点から広い駐車場を前年度に確保したが、送迎については次年度の課題として持ち越した。

相談関係の利用者は、障害福祉サービスは相談支援（計画作成・モニタリング、児童を含む）183 名、一般相談（地域定着支援）104 名。介護では、ケアプラン作成 24 名の合計 207 名（このうち障害・高齢の併用利用が 13 名含まれている）

これ以外に、就ポツでは 600 名を越す登録者を抱えていたので年度末整理して 506 人を登録者とした。

日中活動の利用状況は、全体で 160 名の利用定員に対して登録 187 名、前年度の 1 日の利用定員 140 名前後（利用率約 86%）であり、この数が前々年度からはほとんど変化が見られない。まずは 1 日の利用定員の残りの約 14%を減らすことが優先ではあるが体調の変化等に弱い利用者も多く抜本的な解決策が難しい一面がある。

現場からの苦肉の策として、これをカバーしているのが祝日開所として延べ利用者の人数に。

在宅支援関係では、ホームヘルパー派遣の居宅介護・重度訪問介護（障害）訪問介護（介護保険）の利用登録者が 115 名（居宅介護・同行援護、重度訪問介護名、訪問介護）

これ以外に移動支援の登録者が 62 名。

いずれにしてもヘルパーの不足で十分な在宅支援につながる派遣ができていないのが実情である。

\*\*\*\*\*

## 3. スタッフの確保と質の問題

前年末に地域の縁でミャンマーからの留学生（語学留学）がコロナの影響で働けなくて困っているという話から急遽 7 名の留学生を採用した。学校に在籍している間は入国管理法の関係で 1 週間に 28 時間のしか働けないという条件があり、その条件の基に日本語学校 1 年間、その後介護福祉士養成の専門学校 2 年間、都合 3 年間をかけて養成をしていくという計画の元にスタートした。その後、その仲介となっていた 42 歳のミャンマー人男性が日本人と結婚し在留資格を取得したこともあり、学生との調整役も含んで正職で採用した。年度末には 7 人とも福祉専門学校に合格し、大阪府社会福祉協議会で行っている就学資金援助制度にも法人保証をして借入れも行うことができた。

また一般の採用に関しては、職安の募集からの応募は採用に至らないか、採用しても続かないケースが多い。そのため、人材紹介会社からの採用が多かった。

#### 2021 年度採用状況

- ・正職 11 名 (20 代 1 名)・常勤パート 1 名 (20 代)
  - ・非常勤パート 5 名 (20 代 2 名)
- 年齢層 60 代 1 名 50 代 6 名 40 代 2 名 30 代 1 名 20 代 1 名  
50～60 代の割合が 60%以上占めている。

#### 退職状況

- ・正職 6 名 常勤パート 4 名
- ・非常勤パート 6 名 就労支援 A 型事業 1 名

退職者は、正職で最高 6 年 (結婚により関東へ転居)、後は 4 人が 2 年以内の退職となっている。

依然厳しい状況であり、年齢層は未経験者で高い傾向が続いている。残念ながらこの年齢層は障害者支援のイロハを理解してもらうには難しい年代であるがそこに採用せざるを得ない現状があることは事実である。

また退職者 3 名については、権利侵害 (利用者に対する暴力、暴言が 1 名、ネグレクトに近い虐待、暴言等) が顕著にみられたために、行った行為に対して振り返りや課題を話し合う過程で自己都合による退職となった。ただし 1 名については監督官庁である大阪市に虐待通報して現在は大阪市の調査を待っているところである。

このような状況からの対策として、採用時の研修を手厚くして理解を深めるように取り組んだ。

また、第 3 者委員の積極的な取り組みをいただき、権利侵害事象の早期発見や更には権利侵害を生み出す労働環境の見直しを迫られており、来年度以降への大きな課題として働き方改革も含めて取り組んでいかなければならない。資料② 大阪市への報告書

\*\*\*\*\*

#### 4. 地域連携への取り組み

今年度も新型コロナウイルスの影響で地域行事等が軒並み中止に追い込まれた結果、地域行事への参加はほとんどなかった。

しかし、その中でも法人発信の行事は続けていこうと南しぎの商店街での催しは感染対策を万全に行ない下記の催しを行った。

7 月 七夕選手権 9 月 作品展 11 月 しぎのポッチャ・モルック選手権

特に城東小学校下地域活動協議会においては運営委員会への参画、地域のソフトボール連盟へのリーグ戦参加など積極的に関わってきた。

また、鳴野地域へ資源を集約したことで地域清掃等でのつながりや次年度は城東区の広報誌「ふれあい JOTO」の個別宅配を城東地域活動協議会が受託し実際の個別配布を法人内

の各事業所で地域割りをして行い、その際地域の主に要援護高齢者の安否確認の役割を請け負ったので、利用者・スタッフが地域をくまなく回ることによってコミュニケーションの機会が増え、安否確認等においては障害のある人たちが地域貢献できることで更に地元とのつながりが密になってきた。

\*\*\*\*\*

## 5. 相談支援について

特定相談 159 名、一般相談 102 名、児童 18 名

新規相談は 66 件であった。

構造的には、相談支援単独で運営することは難しいので、利用者の状況によりモニタリングの頻度を増やしたり、全体で地域生活を支えながら地域定着できるように支援し結果報酬が上がるようにしていかなければならないが、一般相談の地域定着支援の件数が前年度に比べて 73%にとどまって（-568 件）いることはスタッフの意識の問題でもある。100 名以上が区内で地域生活を送っており、基本的に地域での生活の一部、居宅介護以外にも支援している実績はあるのだから、スタッフ個々人が丁寧に報告していく意識が弱かったという結果である。

また、今年度の新規相談については、コロナの影響を考えると例年と大きな差はないように思われるが、相談件数に対して利用率が 10.7%であり、この数字をどう見るかであるが特に営利企業や新規参入事業者との利用者の獲得競争が激化している現状を鑑みると相談支援が中心となり各事業との橋渡しの中で積極的に法人内の事業を選んでもらえるために、法人として何が必要か、何を売りにして利用者を増やしていくのかをリードしていく役割が求められる。

\*\*\*\*\*

## 6. 日中活動（就労支援）について

就労支援についてはいろいろな議論が飛び交っている。その多くは作業工賃の低さにある。さすれば作業工賃を上げるにはどうすればいいのか。

法人内の就労支援事業の平均工賃は以下のとおりである。

・座座（B型）6,923 円 ・つむぎ館（B型）5,357 円 ・杜の Shokudo（B型）36,553 円  
・今福（移行）29,142 円 ・今福（B型）27,007 円 ・Kawasemi（A型）144,678 円

基本的には、座座・つむぎ館の工賃が 10,000 円に届いていないということは当然報酬の減額につながってくる。一般的には安い工賃と批判をあびるところであるが、利用者の目線でみれば果たして工賃を上げることが至上なのかと問いかけたくなる。

個人個人が事業所に求めるポイントは違ってくるわけで、法人内においては移行やB型でも工賃の高い事業所等メニューは多いのでその人その人にあつた事業所を利用しているので、必ずしも工賃が高いということが満足度を高めることにはならない。

現場においては作業の前段階の人、年齢的にはリタイアしていい人、作業自体に定着しにくい対象者が多く含まれているのが就労支援 B 型事業であり、毎日の生活の楽しみの充実の延長として作業が設定されている B 型事業所も多いと推察できる。生産能力を本人の想いとは別にあげることには躍起になるのではなく、毎日の生活の一環として作業を位置づけることで本人が自分の役割や生きがいを見いだせるのであれば作業で工賃を上げることに関心ばかりが行く必要はないだろう。

そこでは生活の豊かさや質の向上を目指すための作業活動と位置付け工賃を上げることにのみ力を注ぐ必要はないのである。

また、A 型事業においては 1 日 4 時間週の合計 20 時間（雇用保険の加入）以内の雇用で毎月の給料が 8 万円前後という A 型事業所が非常に多い。これこそ障害のある人の就労の在り方を追求しているようには見えない。法人の Kawasemi では週 5 日間 40 時間労働を基本として雇用している。そのため給料額が高いのである。

今年度の目玉として、農福連携という中で、生産性があり付加価値もあるという作物（菊芋、当帰、アピオス等）を新たに模索して、新たな生産体制を作るという目標には残念ながら届かなかった。

また、作業習慣への動機付けを含めて毎週活動の時間を取り入れた。

- ・音楽活動(歌を歌おう)
- ・ダンス活動
- ・陶芸(内部 本と窯)

#### (1) 座座の移転

自閉症スペクトラム症の理解と具体的な対応に関する取り組みの充実

座座の完成により定員を 10 名増やして 20 名に。ここを法人の自閉スペクトラム症の支援の拠点とすべく構造化も含めて取り組みは前年度の積み重ねを上回るような新たな展開にはならなかった。

#### (2) 南しぎの商店街を活用した就労支援の取り組み

今年度から、引きこもり等の人向けの在宅プログラムを 2 名で開始した。内容はネット販売や写真加工等調理やお菓子製造に馴染まない人を対象としたプログラムの展開を目指したが、これをに担う人材の確保ができず次年度への課題として残った。

新たな店舗展開としては、「杜のざっかやさん（本と窯）」を開始した。ここは古本の販売と地域に向けた陶芸教室を開催すると同時に利用者に向けた陶芸も好評で利用者の新たな世界の広がりがあった。作品はホームページのギャラリーに掲載している。

#### (3) 店舗展開について

Kawasemi、杜の Shokudo、Lian の杜、杜のざっかやさんの売り上げ平均 300 万円超を目標にしていたが新型コロナウイルスの影響で休業を余儀なくされたりで目標には届かなかった。

#### (4) 就労移行プログラムの充実

就労移行プログラムに関しては、今福事業所の管理者の退職もあり移行プログラムの中心となっていた人材がいなくなったことで従来からの取り組みが十分な形ではできなかった。

就職者は全体で一般就労 3 人であり、就労支援 A 型利用 4 人であった。A 型利用は一般就労の位置付けは行っていないが、利用者の本人の能力や客観的な状況を鑑みて一般就労より妥当だと思われる人が含まれている。

\*\*\*\*\*

#### 7. 日中活動（生活介護）について

活動の充実のために外部講師を招聘し充実を図ってきた。新型コロナウイルスの影響で一時期中止せざるを得なかったが早めに再開して余暇の充実を図った。

- ・音楽活動(歌を歌おう)
- ・ダンス活動
- ・ヨガ活動
- ・アロマセラピー
- ・陶芸（内部 本と窯）

法人内では 3 か所の生活介護を運営している。それぞれが大まかには利用対象者が違うし、障害の特性も違っている。それゆえプログラムの内容も違っており、身体障害の重い人の利用の場である「庵」では入浴が中心となるなど生活介護という名称は同じであるが支援内容はずいぶんと開きが出てきている。

知的障害が重度の利用者が多い「げんげん」は日中活動の内容に散歩やドライブ等の余暇活動を取り入れたり、「創奏」は利用者によっては作業型のプログラムもあり、それぞれの利用者の特性に応じた形で展開している。

「げんげん」は、日中活動の全事業の中で利用者の出席率が高いという特徴がある。その裏返しは在宅での支援の困難さが利用率に反映されているの更なる充実が図れるよう取り組んだ。

\*\*\*\*\*

#### 8. 日中活動（介護保険関係）について

「いま福の家」は共生型生活介護・地域密着型高齢通所介護である。生活介護の利用者と年齢的には大きくは変わらないが高齢者と併せたプログラムの充実を図った。

定員枠が 10 名と限定されているために障害福祉サービスのような弾力的な運営が難しさがある。

途中に 90 歳の盲聾の男性が対処して、東淀川区の娘の住む住居の近くのサービス付き高齢者住宅に移った。そうそうの杜の 20 年位地域生活をして日中活動も送ってこられたが残念ながら見取りまでの利用にはつながらなかった。このケースは家族の意向が強く働いた

が法人の仕組みの中で家族の要望に応えられなかったことは今後の課題として考える材料になった。

・居宅介護支援（ケアプラン作成）に関して人件費率が高いという課題。これは一定の経験と年齢を重ねていなければ業務がこなせないという課題もあり人件費の増大につながっている。これは業務の関係上、地域生活支援センターととことこつとが同居して在宅支援に取り組まなければならないという法人の課題も含まれているので何とか解決を図りたかったがいたらなかった。

年間通しての利用者は新規利用者と利用終了者と同数のために利用者は 25 名と前年と変わらずであった。

・訪問介護については 17 名の利用者に対して年間 3900 時間の提供、要支援対象者が 17 名の内 6 名と比率が高い。またとことこつとの特徴であるが障害福祉サービスとの併給利用が 11 名にのぼる。

\*\*\*\*\*

## 9. 児童について

現在でも、相変わらず児童発達支援と放課後等デイが区内でも増え続けている。収支に関しては何とかバランスが取れているが、新規事業者や他のデイサービスの乱立傾向に対して独自の色を出していかなければ厳しい運営を迫られていくのが更に厳しく感じられる年度であった。

一概に批判はできないが事業者の乱立には疑問を感じるものの、法人独自に新規参入事業者に対して検証すべき作業ができていない。何故営利企業の参入が増えているのか。親のどのようなニーズに対応して利用者を増やしているのか等、レスパイト的な位置付けでの利用があることは予想できるが、このような視点で企業ベースの運営の在り方も含めてじっくりと見ていく必要があるだろう。このような現状を踏まえて、本当の意味での療育とは、見栄えのするサービスや児童預かり場所とは別次元の在り方を進めていかなければ淘汰されていくのだろう。

別な視点でみると、法人事業として児童期の児童発達支援や放課後等デイサービスがスタートでライフサイクルに応じた青年期、老年期とつながる支援の枠組みを作ってきた。この法人の間口の広さを特徴としてライフサイクルに応じた枠組みを確立していくことで利用者のいかなければならない。

\*\*\*\*\*

## 10. 在宅支援について

法人独自の地域生活を展開し、まさにそうそうの杜が歩んできた道のりを具現化してきたのだが、ここ数年支援体制の問題（ヘルパーの補充ができず人員が足りないために現場のスタッフに対する負担の増大）でこれ以上の展開は限界にきている。2022 年 3 月末で 98 名

の地域生活を支援している。

そのために、住居や入居者の整理・統合を行い人員が足りない分を補いながら地域での生活を支援してきた。

ここで150人～200人と増やすつもりはないが目標は高く掲げていきたい。しかし未曾有のヘルパー不足の波は、今後も改善の見通しが立たず危機的な状況になるかもしれない。ヘルパーだけでなく法人全体のスタッフが利用者の地域生活の推進役として役割を担っているが、これ以上増やすと現在でさえ質を担保できているか不安であり増々問題が深くなっていく。

ここには、ヘルパー不足もさることながらヘルパーを志す人達の支援に質も大きく問い続けなければならない。

そこには、法人独自の課題も含まれている。法人内でいうところの地域生活支援「地域生活サポート事業」は、法人独自で公益事業として展開しているのであり、ヘルパー業務であるものの、従来のGHの流れをくむ住居単位での支援として、スタッフ個々人にかかる様々な要件（ケースワーク等求められる能力）が多く含まれている。いわばオールラウンドの支援者の役割があるので難しさがある。

今年度は、座の体制づくりの中でヘルパーが孤立しない体制の中で夜勤等の配慮も新しく取り入れていき今後の指標となるように取り組んだ。

\*\*\*\*\*

#### 11. 利用者の余暇活動に関して

昨年度は、知的障害のある人たちにとっての最大の課題である余暇の活用のための手段として移動支援の重要性があるが、今年度は二つの要素で制限された。一つは新型コロナウイルスの影響、もう一つはヘルパー不足（登録ヘルパーが枯渇しつつあること）とダブルの要因で移動支援の役割が果たせず、年々利用者の要望に応えられなくなってきている。

勿論、個々人の社会的な力を伸ばしエンパワメントしていく手段としての移動支援の重要性から抜本的な対策が必要であるが有効な手立てを打つことができなかった。

その他、東京オリンピックの入場券も購入していたが、観覧を断念せざるを得なかった。と言いながらも、ウイズコロナに向け屋外を中心に少しずつ行事を復活させながらコロナ対策を講じてきた。

また、クラブ活動については、マラソン部とボーリング同好会、eスポーツクラブが年間を通じて開催できた。

\*\*\*\*\*

#### 12. 研修について 資料③参照

スタッフ研修については、感染対策を十分行ったうえで資料の通り実施した。その他は社会福祉法人コミュニティキャンパスや法人との交換研修等を計画したがコロナの影響で実

施することができなかった。

前年度に他法人との交流研修を行っていく予定であったが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止にせざるを得なかった。

また三火会（毎月第3火曜日夜）では、他法人との交流を含めて NPO 法人ワークステージ、社会福祉法人ワークスユニオン、社会福祉法人大阪市障害者・スポーツ協会の職業リハビリテーションセンターと定期的に研修会を持つ予定であったがこれもコロナの影響でほとんど実施できなかった。

\*\*\*\*\*

### 13. 権利擁護について

はじめに示したように、支援者による障害者虐待が発覚したので、本人に対しては虐待に関する聞き取りや具体的な解決策を提示しながら改善を図ったが、個人の課題を克服することが難しく本人の依願退職により終結した。

大阪市へは虐待事象として通報し報告をした。

虐待に関する問題に関しては、組織として、虐待の要因を分析し繰り返さないように具体的な対応策を講じていかなければならなかった。結果として、その要因はスタッフ自身の資質の問題、組織としては業務上の問題（業務の煩雑さ・労働時間等の問題）が解決すべき課題として残った。

第3者委員の活動については、コロナの影響で実施回数が少なかったが第3者委員が積極的に各事業所を訪問し利用者、スタッフのそれぞれに聞き取りをして法人の報告をしてもらった。特にスタッフの労働に関する課題があげられる法人に対しては時代に即した解決策を迫られ次年度にスタッフの働き方改革も含め取り組んでいくことが確認できた。

資料④

\*\*\*\*\*

### 14. 防災について

東日本大震災から10年以上が経過しともすれば震災のことが風化しつつある状況ではあるが、昨今の異常気象の様相から地震対策だけではなく風水害に対する警戒も重要な防災対策になってきた。

そのために、防災委員会を中心に様々な観点から突然の防災に対応できるようにマニュアルの改訂等を行った。また毎月の防災訓練もいろんな要素を加味して行った。

防災用品も点検を行い期限が切れているもの、新しく必要な物品を購入した。



\*\*\*\*\*

## 15. 委託事業

### (1) 大阪市障がい者就業・生活支援センター（北部センター）

今年度から新たに3年間の委託契約をスタートさせたが、新型コロナウイルスの影響で就職者の待機状況や新規採用者の雇止めなどが生じないように企業との調整を図ったが企業からは新型コロナウイルス対策のために会社訪問を断られるなど十分な就労定着に向けた支援ができなかった。このような厳しい環境の中で51人の就職者を送り出すことができた。就労支援A型事業に関しては、就職としてのカウントはしないという原則としているが、例えば長年一般就労で働いてきた。障害の特性からフルタイムでの就労は厳しいなど個人個人の要件に応じてその人の働き方の希望によりA型事業へも必要性は確認した。

一方、年度初めには登録者が600名を越す状況であったが、実質的な支援が届かない。あるいは必要ない人も含まれているので登録者の整理をしていく。

また、就労支援ワーカーの増員を図り登録者に対応していく。

### (2) 大阪市子育て支援事業（杜のこうさてん）

これも新たに3年間の受託をした。規模は小さいのであるが南鷺野商店街という立地条件に恵まれ、地域の資源として定着してきた。

新型コロナウイルス対策は万全に行ない、年間通して休業という最悪の事態は免れることができた。

ただし、事業所の面積の問題もあり、年度前半は1日利用定員8組（午前午後4組ずつ）後半は定員10組（午前・午後5組ずつ）と緩やかに緩和しながら実施してきた。

1. 相談支援

前年に引き続き事業計画に「事業所モニタリングの際に、相談支援利用の有無にかかわらず、一步踏み込んだものにする」ということを挙げていたが、そこには至っていないというのが現状で、継続的な課題となった。

今年度に関しては法人内で虐待事案が複数出てしまった。それらの問題が表面に出てくるまで気づけなかったのは痛恨の極みであった。継続的な課題としたが、モニタリングに割く時間をどうにか確保していく。各相談員は他業務との兼務の相談員も多いが、それぞれ20～50件程の担当をしている。自然とその月に手の空いている相談員がモニタリングに行くことが常態化しているが、今年度はそれを改め、どの相談員も満遍なく事業所モニタリングにいけるように調整をする必要がある。他の事業よりももう一步利用者の側に立つて物事を見ていくという相談支援の基本的な姿勢を改めて大事にしていかなければならないと感じさせられる年度だった。

契約数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特定	161	161	159	159	158	159	159	159	159	161	159	159
一般	104	102	102	102	102	102	102	102	103	103	102	102
児童	20	20	19	18	18	17	17	17	17	17	18	18

① 利用状況

今年度の利用人数はどの事業も年間通してほぼ横ばいだった。実際にはもう少し増減があるのだが、同月内で契約になった人、契約解除になった人がいて数字に動きが見えない場合も複数ある。児童については毎年、年度替わりの時に成人の制度に切り替わる児童が数名いるが、今年度末も同様で、児童の利用人数は徐々に減少(27→23→19→16)している。

② 障害種別・性別・年齢

障害種別や性別・年齢等は例年通りだった。障害種別は知的・身体・精神の順。男女比としては4:3で男性が多い。18歳以上の利用は159名で平均年齢は43.7歳となった。18歳以下の利用は18名だった。年々平均年齢がじわじわと上がっていている。

特定相談

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画	9	13	11	13	7	16	12	7	10	10	10	7	125
前年度比	-9	-2	-4	2	-2	2	4	-1	-1	-1	-2	-16	-30
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	71	73	67	73	72	75	77	76	80	71	73	73	881
前年度比	13	13	6	-2	-6	8	4	8	3	7	14	3	71

児童相談

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画	1	0	1	1	1	3	1	3	3	0	2	1	17
前年度比	0	0	-1	0	-1	1	-2	1	0	-2	1	-4	-7
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	2	1	2	1	1	3	1	0	1	2	1	1	16
前年度比	2	1	0	0	0	-1	0	0	0	1	0	-1	2

一般相談

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急支援	141	100	109	105	78	89	149	189	160	141	114	172	1547
前年度比	-11	-120	-164	-115	-135	-82	-2	9	-15	1	22	44	-568

③ 実績

請求実績では計画作成数の減少が挙げられる。契約人数が160人弱いるのだから、最低でもこれぐらいの実績は出てくるはずなのだが、計画を作っても請求用ファイルに入力をしていないということが大きな要因である。事業所内で計画作成時に請求用ファイルに入力するという意識付けを定期的に行うことや、年度途中での実績の確認と周知を行うことで改善を図っていく。

一般の緊急時支援の実績も大きく減っている。しかし今年度は緊急時支援として挙げてきた内容を精査し、請求するかどうかを決めていたため、ある程度は織り込み済みだったが、減少があまりにも目についたため、スタッフ全体に周知したところ、年度末では実績が上がってきた。来年度に関してはミャンマーのスタッフも記録をつけてくれるようになるため、今年度よりは件数が上がる見込みである。

## 2. 2021年度 新規相談一覧

No	月	日	市町村	性別	年齢	障害種別	手帳等級	相談の主旨	サービス内容	誰からの相談か	結果
1	4	8	豊中市	女	16	発達	不明	自立援助ホームに入居中。次の生活の場を探している。	生活の場、SS	弁護士	相談、見学には来たが、当面自立援助ホームで生活することになった。
2	4	21	城東区	男	50	身体	6級	ヘルパー、移動支援、相談支援	ヘルパー、移動支援、相談支援	友人	基幹相談支援センターを紹介
3	4	21	浪速区	男	不明	不明	不明	相談No2の友人。相談支援を探している	相談支援	本人	基幹相談支援センターを紹介
4	5	18	鶴見区	男	17	知的	A	進路を探している。見学したい。	移行、B	母	見学、体験をした。その後連絡無し。
5	5	25	城東区	男	55	難病	なし	職場が難病に対して理解が無い。どうしたらいいだろうか。	生活全般	本人	職場の上司は理解を示してくれそうなので病気のことを話して理解を求めていくように提案
6	5	25	都島区	男	不明	精神	不明	現在B型通所中。医師からOKが出たのでA型の見学をしたい。	A	本人	Kawasemiの見学をした。利用は将来的な話なので今回は見学のみ。
7	5	28	城東区	女	33	精神	2級	今後の生活全般。人を信用できない。人目が気になる。	生活全般	本人	障害基礎年金の請求等、具体的な話もしたが連絡がつかなくなった。
8	6	4	城東区	男	19	発達	なし	本人と家族が分かり合えない	生活全般	母	発達障害について母と話をした。父とも話をしたいとのことで後日父とも話をした。また何かあれば相談することのこと。
9	6	17	城東区	男	51	精神	2級	A型を探している。	A	本人	やりとりに難有り。Kawasemiの実習をしたが募集はしていないということで断った。
10	6	18	大東市	女	46	精神	申請中	日中活動を探している。陶芸に興味がある。	日中活動	病院	鳴野近辺を見学済み。持ち帰って検討することだったが、その後音沙汰無し。
11	6	18	城東区	男	51	身体	1級	近々施設から自宅に戻ってくる。日中活動を探している。	生活介護	相談員	庵を見学し、利用になった。相談員とのやりとりには難あり。
12	6	22	鶴見区	男	18	知的	B1	卒業後の進路を探している。	移行	学校	今福見学済み。その後連絡無し。
13	6	28	城東区	男	24	知的	期限切れ	7月から居酒屋のバイトが決まっているが不安。療育手帳の期限が切れ	相談支援	本人	後日、本人が通院している医療機関から就ボツ登録の依頼あり。就ボツで支援していくこと
14	7	1	城東区	女	12	知的	B1	下校後一人になるので放デイを利用したい。	放デイ	母	以前伝を利用して。見学後、伝利用となった。
15	7	6	城東区	男	63	身体	1級	生活介護利用希望	生活介護	相談員	相談員と本人と意思疎通が取れておらず、白紙になった。
16	7	6	城東区	女	60	身体	等級不明	いま福の家を利用したい。	通所介護	ケアマネ	いま福の家見学済み。利用希望が定員いっぱいの曜日だったので断った。ケアマネとのやりとりで難あり。
17	7	9	城東区	女	16	身体	1級	庵、座、相談支援希望。以前伝を利用して。	生活介護、生活の場、相談支援	母	庵見学済み。相談支援は基幹相談支援センターから選定会議に回してもらうように伝えた。後日、母が座を見学。
18	7	5	枚方市	女	17	なし	なし	自立援助ホーム入居中。そうそうの社の資源の見学。その後どうしていきたいか考える。	生活全般	弁護士	伝にボランティアに来ることになっていたが、一時保護所に移った為、話が流れた。
19	7	19	不明	男	50代	身体	不明	SSを探している。	SS	相談員	SSの新規は断った。
20	7	27	都島区	男	15	身体	不明	光陽中等部3年性。伝利用希望。将来的なことを含め、庵の見学希望。	放デイ、生活介護	母	医療的ケア有り、希望の曜日は伝の利用がいっぱいだったので断った。庵は見学した。
21	7	28	不明	男	不明	身体	不所持	交通事故にあった。手帳や年金の手続きをした。	相談支援	本人	まだ事故にあつて間もない。こちらの申請も時間がかかるので、一度区役所に相談にいくことを勧めた。
22	7	26	羽曳野市	女	50	知的	A	住所は羽曳野市だが城東区在住。生活介護を探している。	生活介護	相談員	庵、げんげん、創奏を見学済み。その後連絡無し。



No	月	日	市町村	性別	年齢	障害種別	手帳等級	相談の主旨	サービス内容	誰からの相談か	結果
23	8	11	城東区	男	6	知的	B1	今の相談事業所との相性が悪いので相談支援を探している。選定会議で決まった事業所もあったが、そこになるとケースをひっかきまわされるのでそうそうの杜で受けて欲しい。	相談支援	区役所(家児相)	相談支援利用となった。
24	8	11	城東区	男	75	不明	不明	ヘルパーを利用したい。	ヘルパー	本人	とことごとくに確認をしたが難しいとの返事。断った。
25	8	23	城東区	女	26	精神	2級	A型を探している。Kawasemiに客としてきたこともある。	A	本人	やりとりに難有り。連絡がつかなくなった。
26	8	31	都島区	男	58	身体	不明	生野区のB型に行っているが工賃が少ないので他を探している。送迎の希望。	B型	本人	つむぎ見学済み。送迎が難しいことと、他も検討しているということで辞退。
27	9	15	旭区	女	18	知的	A	卒業後の進路で生活介護を探している。見学したい。相談支援も希望。	生活介護	母	庵見学済み。本人の反応は良かったので利用させようか検討すると言った後連絡無し。相談支援については断った。
28	9	15	東淀川区	女	46	精神	申請中	A型を探している。対人恐怖症がある。	A	相談員	Kawasemiの仕事内容を伝えた。本人と相談員とで話をしてみるとのこと。その後連絡無
29	9	17	不明	女	90代	不明	要介護1	50代のダウン症の娘(相談No30)と一緒に生活介護で見てもらいたい。	生活介護	支援者	後日再度連絡があることになっていたが、連絡無し。
30	9	17	不明	女	50代	知的	不明	90代の母(相談No29)と一緒に生活介護で見てもらいたい。	生活介護	支援者	後日再度連絡があることになっていたが、連絡無し。
31	9	16	東成区	女	15	発達	不明	母子寮で生活中。母が手術で入院するのでSSで見たい。相談No31~33の兄弟。	SS	支援者	SS調整したが、最終的には入院期間中は母子寮で過ごすことになった。
32	9	16	東成区	女	12	発達	不明	母子寮で生活中。母が手術で入院するのでSSで見たい。相談No31~33の兄弟。	SS	支援者	SS調整したが、最終的には入院期間中は母子寮で過ごすことになった。
33	9	16	東成区	男	10	発達	不明	母子寮で生活中。母が手術で入院するのでSSで見たい。相談No31~33の兄弟。	SS	支援者	SS調整したが、最終的には入院期間中は母子寮で過ごすことになった。
34	9	22	旭区	女	30	身体	1級、A	ヘルパー、SS、生活介護を探している。	ヘルパー、生活介護、SS	相談員	ヘルパー、SSは断った。生活介護は庵とげんげんを見学し、庵を気に入ったようだったが、その後連絡が途絶えた。
35	9	27	都島区	女	不明	精神	3級	何をしてもやめてしまう。どうしたらいいだろうか。都島区の相談支援センターにも電話したがたらいまわしにされた。	生活全般	本人	本人は名前も含め自分のことを言いたがらず、あいまいなまま通話を終えた。
36	9	27	不明	不明	不明	不明	不明	府の自立センターに通所している高次脳機能障害。生活の場を探している。	生活の場	本人	断った。
37	9	27	城東区	女	45	不明	不明	脳梗塞で倒れた。仕事をしたいが難しいので作業所を探している。	B型	本人	事業所の説明を行い、ケアマネと話をするようにすすめた。
38	9	22	城東区	男	18	知的	A	高知で入所施設に入っているが追い出されそう。次の入所施設を探している。	入所施設	母	母も発達の傾向がみられ、あちこちに連絡しこんがらがついている。調整し、相談の窓口を基幹相談支援センターにした。基幹相談支援センター・子ども相談センター等で次の入所を探していく。
39	9	28	城東区	女	63	精神	2級	今後の生活を考えると相談支援をつけたい。	相談支援	姉	選定会議の案内をした。



No	月	日	市町村	性別	年齢	障害種別	手帳等級	相談の主旨	サービス内容	誰からの相談か	結果
40	9	30	都島区	女	25	精神	3級	A型を見学したい。	A	相談員	相談員とのやりとりで難あり。Kawasemi、見学・実習をした。他の所で障害クローズで働いてみるとのこと。
41	10	6	城東区	女	2	身体	A、1級	伝利用者の隣人。伝利用希望。	児童発達	母	伝見学済み。本人医療的ケア(鼻注)があったが、利用希望だったので体制を整え、利用へと至った。
42	10	7	城東区	女	55	身体	不明	機械浴のできる生活介護を探している。	生活介護	相談員	希望の曜日に庵の入浴がいっぱいだったので断った。
43	10	12	城東区	男	6	知的	A	放デイを探している。	放デイ	母	伝見学済み。他の放デイも色々見てから考えるとのこと。
44	10	13	不明	女	42	知的	B1、2級	インターネットで見た。Shokudo希望。	B型	本人	Shokudoのことを伝えた。相談員と話をした。連絡無し。
45	10	21	城東区	男	61	精神	不明	相談員はついてるがヘルパーが見つからないので不信感がある。	生活全般	本人	どもヘルパー不足であることを説明。その後話をし、相談員と話をしてみるということになった。
46	10	28	東成区	男	45	不明	不明	創奏利用希望	生活介護	本人	そうそうの杜出禁の要注意人物。東成区基幹相談支援センター相談員と話をするように伝えた。
47	11	26	城東区	女	56	精神	不明	有料老人ホーム入居中。生活介護を探している。受給者証がまだないので準備できたらまた連絡する。	生活介護	ケアマネ	連絡に難あり。ケアマネ、ホームのスタッフの間でやりとりができておらず、何度も同じ連絡をしていく。結局話は流れた。
48	11	5	東成区	女	不明	不明	不明	インターネットをみて連絡した。相談支援希望	相談支援	本人	まずは東成区の基幹相談支援センターに連絡するように伝えた。
49	11	8	城東区	男	23	精神	2級	B型を探している。Shokudoを希望。	B型	本人	Shokudoの見学をし、実習を行った。本人が思っていたよりしんどかったようで、辞退した。
50	11	18	兵庫県	女	20	知的	B2	蒲生のGHIに入居予定。日中活動を探している。	B型	支援者	そうそうの杜のB型を見学。希望があれば連絡することだったが連絡無し。
51	11	25	不明	不明	不明	不明	不明	Kawasemiに関する問い合わせ。	A	相談員	Kawasemiのことを伝える。9~17時が厳しいかもしれないとのことだったのでShokudoのことも伝えた。その後連絡無し。
52	12	2	生野区	不明	15	知的	不明	相談支援に関する問い合わせ。相談員は付いているが頼りないとのこと。	相談支援	母	生野区基幹相談支援センターの案内をした。
53	12	8	城東区	男	25	知的	A	支援学校卒業後、引きこもっている。どこかと繋がってみたい。	相談支援、日中活動	母	鳴野近辺の事業所を見学済み。利用には至らないだろうが、窓口としての関わりを継続
54	12	6	鶴見区	男	31	精神	3級	今後の生活全般に関する相談。	生活全般、相談支援	母	サービス利用は無いが、相談は継続していく。
55	12	15	都島区	女	57	精神	不明	家がゴミ屋敷。ヘルパーを探している。時間が無いので今日は帰る。	ヘルパー	本人	その後一度連絡があったが、話は進まず。その後連絡が途絶えた。
56	1	4	都島区	女	不明	不明	不明	相談員が動いてくれない。引きこもりがちなのでどこか外に出たい。仕事したい。	相談支援、生活全般	本人	しばらく世間話をし、自身の心と体のバランスが取れたらまた見学依頼の電話をするとのこと。
57	1	12	城東区	女	7	発達	不所持	痛癢がひどい。どこか相談できるところが欲しい。	相談支援	選定会議	計画相談利用へ。
58	1	12	城東区	男	17	知的	不明	コロナでの学校の休み等でプレしている。自傷や母への他害が出ている。	相談支援	選定会議	計画相談、添利用へ。
59	1	12	住吉区	女	17	知的	不明	京都医療少年院在院中。退院後は自立援助ホームの予定。その後の生活の場を探している。	生活の場	支援者	まずは退院を待つ。

No	月	日	市町村	性別	年齢	障害種別	手帳等級	相談の主旨	サービス内容	誰からの相談か	結果
60	1	13	城東区	女	43	知的	B1	つむぎ館利用希望。	B型	父	父からの電話だったが詳細を話したがらず。電話番号も教えてくれず。その後連絡無し。
61	1	21	不明	男	50代	不明	申請中	就労移行を利用したい。	移行	支援者	内部の緊急事態宣言だったため、2月に再度連絡をもらうことになっていたが、その後連絡無し。
62	1	22	鶴見区	男	60	精神	2級	今後の生活全般。川戸相談員の知人。	相談支援、生活全般	本人	川戸相談員が個人として話を聞くことに。
63	1	26	城東区	男	46	知的	B2、2級	A、B、移行の見学・体験がしたい。	A、B、移行	相談員	内部の緊急事態宣言の為、また後日連絡をもらうことに。5/11に連絡あり。5/18に見学予定。
64	2	3	大東市	男	不明	不明	不明	入居予定のGHスタッフからの相談。日中活動の依頼。	生活全般	支援者	見学等の流れを説明した。検討するとのこと。その後連絡無し。
65	3	30	生野区	女	19	知的	不明	今通所している移行支援が事業所を閉める。B型を探している。	B型	支援者	B型事業所の見学済み。5/16からShokudo、Lianの体験。
66	3	30	城東区	男	25	知的	不明	今通所している移行支援が事業所を閉める。B型を探している。	B型	支援者	B型事業所の見学済み。5/16からPrifeの利用開始。



## 新規相談 集計

**66件** このうち利用契約に至ったケースは7件(10.7%)

今年度は昨年度に比べ、相談件数が13件増えたが、それでもコロナ以前と比べると20件程低い。また、法人内資源の利用に結びついたものは7件で11%弱。例年は19%弱なので、それに比べると低い。今年度は事務所前に看板を設置したこともあり、看板を見ての飛び込みや電話での相談が8件あった。

障害種別	身体	知的	精神	発達	難病	不明	2種重複	3種重複	手帳不所持
重複	12	22	18	6	1	11	5	0	2

三障害の割合に大きな変化は無い。障害種別の分からない相談が11件あった。そのうち手帳を所持していないと答えたのは2件。また、今年度は手帳種別ではなく、障害種別で集計を行っている。その為、これまでは精神や知的の手帳を所持しているためそちらでカウントしていた発達障害の人の割合が増えている。障害種別不明の人の多くは精神の手帳を所持した自閉スペクトラム症の人であろうと思われる。

相談内容	就B	就A	就移	生活介護	GH	SS	児童発達	放デイ	ヘルパー	生活の場	相談支援	生活全般	入所施設
重複	11	8	5	13	0	6	1	4	4	3	14	15	1

就労系や生活介護等の日中活動については例年通りの比率となった。ここ数年、相談支援に関する件数が増えていたが、今年度は日中活動系個々のサービスよりも件数が挙がっていた。相談支援に関する認知が広がっていきつつあるのかと思われる。相談支援事業所から見学依頼があり、やり取りする場面もあるが、利用者の意思確認をせずに話を進めていたり、こちらの伝えた日時をまるつきり聞いていなかったりと質を疑う事業者もいた。認知が広がるのはありがたいことだが、悪いイメージが広がらないよう、自分たちが関わるケースに関しては丁寧にやっていきたい。

また、生活全般という分け方をしているが、具体的な相談事があるわけではないケースだったり、逆に困りごとが多すぎて「生活全般」に分類していたりと様々である。相談者の困りごとが明確でない相談が増えたことにより法人内資源利用の割合が減ったということも考えられるかもしれない。

誰からの相談か	家族	本人	基幹相談	相談支援	他事業所	病院等	法人内	選定会議	ケアマネ	VOグループ	学校	役所	こ相等	後見人等
	14	22		10	11	1		2	2		1	1		2

相談内容に引き続き、相談支援員からの問い合わせがぐんと増えた。また本人からの相談の割合も増加している。この傾向は今後数年、もっと顕著になっていくと思われる。今年度はまだ他の障害福祉サービス事業所からの問い合わせもあったが、相談支援事業所からの問い合わせが増えれば増えるほど、他のサービス事業所からの問い合わせは減少していくのだと予想される。家族からの問い合わせではやはり母親からの問い合わせが多かった。これについてはいつになっても変わらないのだろう。

居住地域	城東区	鶴見区	旭区	都島区	生野区	東成区	浪速区	東淀川区	住吉区
	28	4	2	8	2	5	1	1	1
	豊中市	枚方市	大東市	羽曳野市	他府県	不明			
	1	1	2	1	1	8			

居住地域については従来と大きな違いは無かった。大阪市内の割合が78%。市内の内訳としては城東区が半数を超えるという例年通りの結果となった。地域に根差した法人であるということを裏付けるものであり、今後もこの傾向は変わらずにあってくれたらと感じる。

ちなみに他府県からの相談については城東区のGHへの入居が決まっており日中活動を探している、という相談だった。

(1) 月別利用数 定員： 6 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	昨年度実績
4月	22	6	129			136
5月	20	6	112			125
6月	22	6	118			144
7月	22	6	123		ヤマト運輸就職 1名新規利用開始	146
8月	22	6	117			118
9月	22	6	125			134
10月	22	6	123			127
11月	22	4	76		1名就A型利用の為退所 1名養豚場就職	117
12月	22	3	65		1名ヤマト運輸就職	112
1月	20	3	54	2		94
2月	20	4	60	4	1名新規利用開始	96
3月	23	3	68		1名そうそうの杜トライアル雇用	108
合計	259	59	1,170	6	実績月平均： 97.5 名 1日平均平均： 4.5 名	1,457

上半期は定員6名で推移し就労に向けた取り組みを実施。7月に1名運輸会社に一般就労果たせた。一方入れ替わるように一人の利用者が入って来る。上期は安定して通所できていたが、下期に法人外の就労継続支援A型利用に移行。養豚所に1名、運輸会社に1名の2人が一般就労を果たし3名の登録者減になった。また、2月に1名の新規利用に関しては初めての試みで在宅支援を行ない、通所が難しい利用者に向けての支援も視野に入れての試みである。

(2) 障害の状況 (主たる障害にて明記)

半数が知的障害。新規利用1名も含め2名が神障害である。

(3) 障害支援区分

自宅から通所し家族と同居していることもあって、障害支援区分を取得していない利用者は1名。他の2名に関しては自力生活に近い利用者で就労以外にも生活面も取り組みが必要。また、1名は通所困難な為在宅支援を行い通所できる事を目指している。

(4) 利用者の性別/年齢

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	合計
男性	0	2	0	1	3
女性	0	1	0	0	1
合計	0	2	0	1	4
割合	0%	50%	0%	25%	—

期首中に3名の利用者が就職。1名が就労継続支援A型に就職、1名が同法人内にトライアル雇用が決まり、昨年からの利用者でも若い層が就職を決めている。



## (5) 利用年数 平成23年4月1日開所

	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4～5年未満	5～6年未満	6～7年未満	7年以上	合計
男性	1	2	0	0	0	0	0	0	3
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	2	0	0	0	0	0	0	3
割合	33%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	—

期首中に新たに1名利用開始。他の2名は来年就職を目指し活動する。

## (6) 利用者居住区

城東区	鶴見区	旭区	都島区	東成区	その他	大阪府下	合計
0	1	1	0	0	1	0	3
0%	33%	33%	0%	0%	33%	0%	—

城東区在住者は無く他の区域からの利用者が利用になっている。

## (7) 月別行事

4月	花見	10月	運動会
5月	BBQ	11月	モルック大会
6月	田植え	12月	忘年会
7月	一泊旅行	1月	初詣
8月	日帰り旅行	2月	
9月	ぶどう狩り	3月	外出行事(鶴見緑地公園)

新型コロナウイルス感染防止対策から思うように外出行事や調理などのイベントを行うことができなかったが、B型利用者と共に宿泊施設を1棟貸し切りにし、移動手段のバスでも間隔を十分に空けられるような防止対策を行い夏に琵琶湖にて1泊2日の湖水浴旅行を実施することができた。また、作業所内で食べ物のブースを何カ所かづくり、お祭り気分を味わってもらうような企画も出来た。

## (8) 工賃状況(年間平均) 利用率80%以上の入

5,000未満	10,000未満	20,000未満	30,000未満	30,000以上	平均金額
0	0	0	2	0	29,142

作業収入： 1,401,750 円 工賃額合計： 1,258,350 円 還元率： 90%

年間通して移行プログラムを定期的に開催していたが、利用メンバーが就職していき利用人数は減少しプログラム自体がバラバラになってしまった。しかし移行メンバーの中に就職に向けての企業内での作業をしてもらい作業収入が上がった事もあり、昨年よりも平均工賃が上がっている。

## (9) 就職者数

2020年度： 1 名 就労継続支援A型 2 名  
2021年度： 3 名 就労継続支援A型 1 名

## 2021年度の詳細

性別	年齢	手帳	採用日	トライアル	業種	雇用内容	給料
男性	26歳	療育	2021.5.16	なし	運輸業	パート	970円/時
男性	32歳	療育	2021.11.1	あり	養豚所	パート	992円/時
女性	23歳	療育	2021.11.16	なし	運輸業	パート	970円/時

## まとめ

昨年に引き続き、就労移行プログラムを実施していったが、新たに入った利用者と昨年から引き続きプログラムを受けている利用者と格差が両利用者とも中途半端なプログラムになっていた感じは否めない。その中でも3名の利用者が一般企業に就職が決まり1名の利用者が就労継続支援A型利用する事が出来た。

プログラムは、毎年新たに考え直す必要がある事。全体でするプログラムと、個人的に取り組むプログラムとを分け曜日、時間に区切って取り組んでいかなければいけない事も確認できた年であった。

来年度に向けては、全体プログラム、個人プログラムと2分割し、曜日、時間、メンバーと事細かにスケジュールを組み年間通しての取り組みと言うより、4半期で変えるプログラム等変化を付けた取り組みを実施していくことが必要と考えている。また、外部講師も視野に入れ取り組んでいく。

事業所:	今福事業所(就労継続支援B型)
------	-----------------

(1) 月別利用数 定員: 14 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	昨年度実績
4月	22	18	349	1		344
5月	21	16	307	0	1名入院、1名コロナ警戒の為休み	337
6月	22	18	352	1	1名入院中	363
7月	23	18	343	3	1名入院中	360
8月	21	17	305	5	1名入院中、1名コロナ警戒の為休み	272
9月	22	17	319	2	1名入院中、1名退所	334
10月	23	17	326	4	1名入院中	371
11月	21	17	327	3	1名入院中	343
12月	21	16	308	9	1名庵利用の為退所	359
1月	20	15	278	6	1名A型利用の為退所	330
2月	20	15	284	3		340
3月	23	15	328	6		397
合計	259	199	3,826	43	実績月平均: 318.8 名 1日平均: 14.8 名	4,150

定員数を20名から14名に変更している。前半期に新型コロナ警戒で1名の利用者が期間を置いて丸々2か月間通所を止めている。しかし、この2か月間何も対策が取れなかったことは反省点である。それ以外は感染予防対策を徹底しつつ通所できていた。また、6月から1名の利用者が長期入院になり退院後身体的に就労での作業は困難と思われ、生活訓練事業所に移動している。

(2) 障害の状況 (主たる障害にて明記)

① 知的障害

A	B1	B2	合計
6	6	1	13

② 身体障害 なし

③ 精神障害 なし

④ 重複障害

B1・身4・精2	A・身1	A・身6
		1

全ての利用者が療育手帳取得者であり、その内A判定の利用者が半数を占めている。重複障害として聴覚障害の方が1名利用している。

(3) 障害支援区分

6	5	4	3	2	1	非該当	認定なし	合計
1	1	5	4	1	0	0	1	13
8%	8%	38%	31%	8%	0%	0%	8%	

就労移行支援利用者とは異なり、就労継続の支援だけでなく、日常生活の支援が必要な方がおられ、9割強の利用者が支援区分を取得している。

(4) 利用者の性別/年齢

	20歳未満	20~49歳	50~59歳	60歳以上	合計
男性	1	6	1	1	9
女性		4			4
合計	1	10	1	1	13
割合	8%	77%	8%	8%	—

50歳未満の利用者が大半を占めているが、50歳以上の年齢の高い利用者もおり、お互いに刺激し合って作業能率を上げ合ったり、年齢の高い利用者が作業を教えたりと利用者同士の関係も良好。

## (5) 利用年数 平成23年4月1日開所

	1年未満	1～2年未満	7年以上	合計
男性	0	3	6	9
女性	0	0	4	4
合計	0	3	10	13
割合	0%	23%	77%	—

利用期間が7年以上の利用者が7割以上を占める。新卒、新規利用者は今年度は無く、昨年新規利用となった利用者が継続して利用中。

## (6) 利用者居住区

城東区	鶴見区	旭区	都島区	東成区	その他	大阪府下	合計
8	3		1		1		13
62%	23%	0%	8%	0%	8%	0%	—

居住区に関しては大きな動きはなく、利用者の7割弱が城東区内に居住しており、ほとんどの利用者が徒歩で通所している。若干1名は遠方である生野区に居住しており、自転車で通所している。

## (7) 月別行事

4月	花見	10月	運動会
5月	BBQ	11月	モルック大会
6月	田植え	12月	忘年会
7月	一泊旅行	1月	初詣
8月	日帰り旅行	2月	
9月	ぶどう狩り	3月	外出行事(鶴見緑地公園)

新型コロナウイルス感染防止対策から思うように外出行事や調理などのイベントを行うことができなかったが、宿泊施設を1棟貸し切りにし、移動手段のバスでも間隔を十分に空けられるような防止対策を行い夏に琵琶湖にて1泊2日の湖水浴旅行を実施することができた。また、作業所内で食べ物のブースを何カ所かつくり、お祭り気分を味わってもらうような企画も出来た。

## (8) 工賃状況(年間平均) 利用率80%以上の入

5,000未満	10,000未満	20,000未満	30,000未満	30,000以上	平均金額
	1	1	11	2	27,007

作業収入： 5,659,629 円 工賃額合計： 4,981,710 円 還元率： 88%

コロナ禍の中で思うように作業が入ってこなかったが施設外作業での収入が大きかったこともあり、作業収入を確保する事が出来、賞与も大幅に支給することができた。

## (9) 就職者

今期は就労継続支援B型事業からの就職者は出なかったが、昨年から引き2名の利用者と新たに1名の利用者が企業内で作業を行う実習に取り組めるようになった。

4月から1名の利用者が就労移行支援にステップアップし、就職活動を行う事になる。

## まとめ

本年度は施設外で作業をする利用者が3名、より就職に向けた動きが取れたと感じる。この取り組みを活かし就労に向けてより一層取り組んでいく。また、新たな企業からの作業依頼も増えてきているが、利用人数が少なくなっていることもあり、今後は作業内容を見直し、より利用者にとって利になる様にしていく。祝日開所では、外出行事を増やし、仕事と余暇のメリハリをつけた取り組みを考えていたが、新型コロナウイルスの影響があり、なかなか思うように開催できなかったことはあるが、その中でも室内での催し、パソコンやタブレットを利用したリモートでのトランプ大会や卓球大会などソーシャルディスタンスを保った上でのレクリエーションを作る事ができ、新しい試みに利用者も大変喜んでいて、それ以後は室内レクリエーション時にはリモートを使ったゲーム大会が増え、利用者と一緒に楽しむことはでき祝日開所は来所しなかった利用者も参加出来ている。

1.月別利用数 定員： 20 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	前年実	前年比
4月	22	14	256	6	〇さん、Tさん、Yさん登録	224	114%
5月	21	15	255	3	Kさん登録	201	127%
6月	22	15	281	5		238	118%
7月	22	15	278	7		243	114%
8月	22	15	267	10		218	122%
9月	22	15	271	10		234	116%
10月	21	15	284	2		237	120%
11月	22	15	279	8		216	129%
12月	22	15	286	1		230	124%
1月	20	15	255	5		211	121%
2月	20	15	258	2		201	128%
3月	23	16	319	2	Mさん登録	237	135%
合計	259	180	3,289	61	実績月平均： 274.1 人 1日平均： 12.7 人	2,705	122%

今年度から座座が新規事業登録となり、昨年度の定員10名→20名に変更。登録者数は4月に3名、5月に1名、3月にも1名増え現在登録者数16名となっている。ただ、昨年度自宅療養していた利用者が今年度は1度も利用出来ていない。新型コロナウイルスの影響で若干欠席者は出るものの大きく崩れることはなかった。欠席者の割合として3分の1がコロナ関連(ワクチン接種副反応等、濃厚接触者)となっている

2.利用者

(1)所持手帳

療育手帳のみ	13
身体障害者手帳のみ	
精神保健福祉手帳のみ	
療育・身体障害者手帳	3
療育・精神保健福祉手帳	
身体障害者・精神保健福祉手帳	
療育・身体障害者・精神保健福祉手帳	
合計(人)	16

(2)障害支援区分

区分	割合	人
6	6%	1
5	38%	6
4	38%	6
3	13%	2
2	0%	
1	0%	
非該当	6%	1
未認定	0%	
合計		16

(3)利用者の性別/年齢

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
割合	6%	25%	31%	13%	19%	6%	100%
男性	1	4	4	2	3	1	15
女性			1				1
合計	1	4	5	2	3	1	16

今までの座座は男性が100%であったが、今年度から女性利用者が1名入ることになった。特に利用者での影響は大きく出ることにはなかった。平均年齢もバランス良い状態であり20代～30代が多くなっている。

### 3.行事・祝日開所企画等

#### (1)内容

4月	花見
5月	バーベキュー
6月	田植え、木下大サーカス
7月	一泊旅行、日帰り旅行
8月	映画鑑賞
9月	ブドウ狩り

10月	運動会
11月	バーベキュー、ポッチャ・モルック大会、ミカン狩り
12月	美術鑑賞、忘年会、餅つき
1月	初詣
2月	映画鑑賞
3月	いちご狩り

#### (2)祝日開所

平均利用者数	13	人
--------	----	---

今年度は仕事、祝日開所は遊びとメリハリをつける為、コロナ対応を徹底しながら外出行事を増やして行くことができた。新規利用者も増えた中、外出行事を行う事で座座での一体感を感じてもらえたのではないだろうか。しかし、去年に引き続き2月の冬の一泊旅行は感染者が増加したため中止する等、毎月外出を意識していたができない月があった。

### 4.工賃

	作業収入	工賃支出	工賃還元率
4月	74,263	68,200	92%
5月	103,104	90,700	88%
6月	106,397	89,300	84%
7月	61,076	60,900	100%
8月	124,972	101,400	81%
9月	121,022	97,800	81%
10月	149,346	116,000	78%
11月	90,359	71,300	79%
12月	129,323	103,800	80%
1月	94,693	75,900	80%
2月	157,956	109,300	69%
3月	116,481	104,200	89%
賞与	0	100,200	—
合計	1,328,992	1,189,000	89%

工賃月額	人
30,000円以上	
30,000円未満	
20,000円未満	
10,000円未満	13
5,000円未満	

平均工賃月額	6923 円
--------	--------

※利用率80%以上の利用者を対象

昨年度に工賃規定を改定したことで月の作業収入から工賃を割り出すことになり、改定前は時給100円であったが現在は以前の時給に届かず、多い月で80円となっている。未だコロナウィルスの影響もあることで作業量は減少していることから作業量、工賃を増やす為に新たな企業から仕事を受注しており、前年度後半からは作業収入も伸びてきている。

### 5.総括

今年度は座座が新規事業として経ち上がり、定員数も10名から20名と変更している。現在は登録者数16名と利用数も伸びている。自閉スペクトラム症の利用者が多数いることから作業環境の構築や利用者個人にあった作業の取り組み方についても、まだまだやり残した部分はあり、今年度への課題となっている部分である。  
作業収入についても受注作業を増やしているが収入も伸びては来ているものの予想していた結果までには至っていない。作業工程、作業環境の精査が必要となる

## 1.月別利用数 定員: 20 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	前年実	前年比
4月	22	22	386	15	新規利用1名	305	127%
5月	21	22	346	13		321	108%
6月	22	23	401	13	新規利用1名	388	103%
7月	22	23	369	13		390	95%
8月	22	23	370	9	Aさん自宅療養	348	106%
9月	22	23	375	11	入院1名	392	96%
10月	21	23	365	11	入院2名	394	93%
11月	22	23	357	9	入院2名	367	97%
12月	22	23	379	7	入院1名	328	116%
1月	20	23	344	16	新型コロナウイルス感染者3名(1/27.28・31利用制限) 入院1名	328	105%
2月	20	23	335	9	新型コロナウイルス感染者3名(2/1~2/5利用制限) 入院1名	339	99%
3月	23	23	383	15	入院1名	390	98%
合計	259	274	4,410	141	実績月平均: 367.5 人 1日平均: 17.0 人	4,290	103%

新規利用者は年度内で2名であった。登録者数は23名で維持することができた。しかし、9月から1名が事故での入院となり、それ以降も2名が10月～12月にかけて入院する時期があった、また、1名が自宅療養のため、長期で休むことになり、1日の利用人数が減った。登録者数によって、実績の変化はあったが、週に数回の利用者も数名の利用日数をなかなか増やせなかった。時期によっては新型コロナウイルス感染を警戒する人もいた。

## 2.利用者

## (1)所持手帳

療育手帳のみ	15
身体障害者手帳のみ	1
精神保健福祉手帳のみ	2
療育・身体障害者手帳	3
療育・精神保健福祉手帳	1
身体障害者・精神保健福祉手帳	1
療育・身体障害者・精神保健福祉手帳	0
合計(人)	23

## (2)障害支援区分

区分	割合	人
6	13%	3
5	9%	2
4	26%	6
3	17%	4
2	17%	4
1	4%	1
非該当	0%	0
未認定	13%	3
合計		23

## (3)利用者の性別/年齢

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
割合	0%	30%	4%	17%	26%	22%	100%
男性	0	4	1	2	4	1	12
女性	0	3	0	2	2	4	11
合計	0	7	1	4	6	5	23

男女比、年齢分布と大きく変わらず。新規利用者も50代・60代であった。年齢分布も40代～50代が半数ということは大きく変わらなかった。

### 3.行事・祝日開所企画等

#### (1)内容

4月		10月	そうそうの杜大運動会
5月	焼きそば作り	11月	モルック大会・たこ焼き
6月		12月	Kさん企画(鍋パーティー)、忘年会、もち
7月	サンドイッチ作り 夏旅行(滋賀・湖水浴)・日帰り旅行(ネスタリゾート神戸)	1月	初詣
8月	お好み焼き	2月	
9月	ぶどう狩り	3月	

#### (2)祝日開所

平均利用者数	12.1	人
--------	------	---

利用者企画では食事作りが中心であった。またKさんの企画も不定期ではあるが開催し、本人も無くそうおはしなかった。今福事業所・座座・つむぎ館の合同企画である、一泊旅行・日帰り旅行は実施した。新型コロナウイルス感染への対策をしたうえで「出かけること」を利用者・職員共に意識し実行できた。全体行事・祝日開所日共、利用人数は大きく変わりはなかった。

### 4.工賃

	作業収入	工賃支出	工賃還元率
4月	98,589	78,900	80%
5月	94,593	77,500	82%
6月	132,430	104,000	79%
7月	83,724	68,200	81%
8月	122,773	97,800	80%
9月	128,333	103,500	81%
10月	97,471	83,400	86%
11月	129,195	104,100	81%
12月	130,348	107,400	82%
1月	95,584	84,600	89%
2月	93,310	75,300	81%
3月	126,810	124,500	98%
賞与		75,300	—
合計	1,333,160	1,184,500	89%

工賃月額	人
30,000円以上	0
30,000円未満	0
20,000円未満	0
10,000円未満	12
5,000円未満	2

平均工賃月額	5,357 円
--------	---------

※利用率80%以上の利用者を対象

若干ではあるが、作業収入自体は増収となった。前年度同様、利用者人数により工賃も増額となるため、1万円前後の増収では時給単価を増やすことができなかった。

### 5.総括

祝日開所の企画や夏の旅行を、心配しながらも楽しみにしている利用者が多かった。そのため、企画を実行するためには何が必要か、新型コロナウイルスの感染予防にはどうするか等、利用者・スタッフ共に「出かけられない」から「出かけるためにはどうすればいいか」に変わってきた。1月以降、新型コロナウイルス感染者が計6名(利用者6名、職員1名)となった。感染が、より身近で現実的なこととなった。消毒等、日々の感染予防策の継続にも影響があった。

工賃規程を変え、時給単価のバラつきが大きい時もあった。一定額が維持できるように、作業準備の段階から職員が見通しを立てて進めていくことが不足していたところもあった。

余暇活動として、ダンス・歌の時間は今年度も意義のある時間となっていた。作業から離れた活動、好きなことができる時間ということが大きかった。

1.月別利用数 定員: 7 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	前年実	前年比
4月	25	8	171	2		150	114%
5月	23	8	151	1		144	105%
6月	26	8	178	2		174	102%
7月	25	8	153	4		155	99%
8月	22	8	126	7		141	89%
9月	24	7	133	4	1名退職(Tさん)	165	81%
10月	26	7	140	3		180	78%
11月	24	7	134	2		149	90%
12月	27	7	140	6		178	79%
1月	22	7	124	3		144	86%
2月	22	7	100	3		149	67%
3月	26	7	138	8		186	74%
合計	292	89	1,688	45	実績月平均: 140.7 人 1日平均: 5.8 人	1,926	88%

前年度よりも登録者数が1名減になって以降は、実績が前年比を下回った。A型利用の問い合わせは年々に減ってきており、見学はあるものの利用には至っていない。  
新型コロナウイルス感染症による、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置で店舗営業をできない状況はあったが、弁当販売に切り替えたりすることで閉所する事態は免れた。

2.利用者

(1)所持手帳

療育手帳のみ	5
身体障害者手帳のみ	
精神保健福祉手帳のみ	2
療育・身体障害者手帳	
療育・精神保健福祉手帳	
身体障害者・精神保健福祉手帳	
療育・身体障害者・精神保健福祉手帳	
合計(人)	7

(2)障害支援区分

区分	割合	人
6	0%	
5	0%	
4	0%	
3	0%	
2	14%	1
1	14%	1
非該当	71%	5
未認定	0%	
合計		7

3.利用者の性別/年齢

	20歳未満	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	合計
割合	0%	29%	29%	29%	0%	14%	100%
男性			1	2		1	4
女性		2	1				3
合計	0	2	2	2	0	1	7

利用年数が1番短い利用者で丸4年を経過した。年数の長い利用者で来年度10年を迎える全員が手帳所持者で約半数以上の方が発達障害を伴っている。  
利用者の男性の平均年齢が46.2歳に対して、女性の平均年齢は27.3歳となっている。

4.賃金状況(平均月額) 利用率80%以上の人 賞与は含まない

80,000未満	80,000円以上	100,000円以上	150,000円以上	平均額(円)
0	0	5	2	144,678

売上 : 18,371,152 円 賃金額合計 : 14,492,361 円 還元率 : 79%



## 5.売上と仕入額

### 《Kawasemi》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上	1,494,650	1,312,930	1,492,380	1,499,110	1,551,740	1,615,080
仕入れ	278,958	207,021	360,868	339,600	427,560	369,445
原価率	18.7%	15.8%	24.2%	22.7%	27.6%	22.9%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(円)
売上	1,653,900	1,818,890	1,659,222	1,332,890	1,208,750	1,731,610	18,371,152
仕入れ	301,031	322,114	359,057	269,483	182,564	390,401	3,808,102
原価率	18.2%	17.7%	21.6%	20.2%	15.1%	22.5%	20.6%

### 《Lianの杜》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上	236,036	173,070	201,367	150,681	127,331	162,893
仕入れ	130,571	62,708	111,995	102,196	63,336	142,431
原価率	55.3%	36.2%	55.6%	67.8%	49.7%	87.4%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(円)
売上	234,702	169,228	314,310	104,860	200,982	243,032	2,318,492
仕入れ	105,426	96,814	105,932	79,298	135,502	100,926	1,237,135
原価率	44.9%	57.2%	33.7%	75.6%	67.4%	41.5%	56.0%

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大によりさまざまな行動制限がされる中ではあったが、Kawasemi、Lianの杜ともに来店して下さるお客様は増え、売り上げアップに繋がった。両方ともに昨年度の売り上げを上回ることができた。

## 6.総括

Kawasemiでは利用者が自分で考えた副菜を作りお客様に提供することができた。Lianの杜では利用者が作成したお菓子を販売し、それぞれ仕事の幅を広げることができ、各個人のスキルアップにつながった。

Kawasemiのインスタグラムは今年度1000人を超えるフォロワー数を達成することができた。

事業所: 杜のShokudo(就労継続支援B型)

2021年度に計画していたKawasemi・杜のShokudo合同で外部の事業所へ見学に行きたいと思っていたがコロナの影響や現場の業務に追われて実現しなかった。  
 また、杜のShokudoの弁当やLianの杜のお菓子の配達をfoodpandaに依頼していたがfoodpandaの会社が日本から撤退した事と思うように頻繁に注文が入らなかったのをやめることにした。  
 しかし、Shokudoのお店の前で弁当を販売するとよく売れて一日に30食以上売り上げる日もあった。食で地域の人とのつながりを深める事が出来たと思う。  
 杜のざっかやさんでは、本と窯をオープンさせ地域の人やそうそうの杜の利用者が気軽に陶芸を体験出来るようになった。陶芸で作品を作り才能を発揮する利用者もいて嬉しく思った。また南鳴野商店街の活性化にもつながったと感じた。

(1)月別利用数 定員: 10 名 平成30年10月1日 開所

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	昨年度実績
4月	26	15	259	7		235
5月	25	15	233	13		210
6月	26	13	247	11		223
7月	27	14	249	5		247
8月	25	15	221	24		197
9月	26	13	214	15		193
10月	26	12	215	8		226
11月	25	12	218	3		189
12月	27	12	242	6		229
1月	23	12	183	6		188
2月	24	12	178	9		173
3月	26	13	222	7		221
合計	306	158	2681	39	実績月平均 : 223.4 名 1日平均 : 8.8 名	2531 名

2021年度の新規利用5名のうち二か月以内で利用終了になったのは2名だった。

(2)障害の状況 (主たる障害にて明記)

①知的障害

A	B1	B2	合計
0	6	2	8

②精神障害

1級	2級	3級	合計
0	3	0	3

別途、身体1級(聴覚障害)の方の利用1名と手帳なしで精神障害の診断の方1名。

(3) 障害支援区分

6	5	4	3	2	1	非該当	認定なし
0	0	3	2	2	1	0	5
0.0%	0.0%	23.1%	15.4%	15.4%	7.7%	0.0%	38.5%

合計
13

障害支援区分3以上の方の割合が多くなっている。

(4) 利用者の性別/年齢

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男性	0	0	3	2	0	0	5
女性	1	1	3	1	0	2	8
合計	1	1	6	3	0	2	13
割合	7.7%	7.7%	46.2%	23.1%	0.0%	15.4%	—

男性より、女性の割合の方が多い。30代40代の利用者が7割近くになる。

(5) 利用年数 平成 30年 10月 1日開所

	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	合計
男性	1	1	2	1	5
女性	0	2	2	4	8
合計	1	3	4	5	13
割合	7.7%	23.1%	30.8%	38.5%	

(6) 利用者居住区

城東区	鶴見区	淀川区	旭区	都島区	東成区	大阪府下	合計
9	1	1	0	1	0	1	13
69.2%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	—

城東区在住の利用者の方が大半を占めている。日中の作業に調理分野を設定している事業所が少ないため、ニーズや問い合わせは多いが立ち仕事でハードな為辞める人はすぐに辞めてしまう。

(7) 工賃状況(平均月額) 利用率80%以上の人

利用率80%未満	20,000円未満	20,000円台	30,000円台	40,000円台	50,000円以上	平均金額
4	1	1	4	2	1	36,553円
31%	8%	8%	31%	15%	8%	—

売上-仕入 : 11,127,116 円

賃金額合計 : 5,702,409 円

利用率80%未満の人は登録していても、継続してくることが難しい人である。  
一方、ほぼ全く休まずに来る方とはっきりと2つに別れている。

## (8) 売上と仕入額 &lt;&lt; 社のShokudo &gt;&gt;

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
売上(S)	1,677,850	1,627,285	2,153,021	1,753,888	1,658,091	1,899,280	
仕入額	755,666	810,417	1,216,978	779,821	767,448	998,190	
原価率	45.0%	49.8%	56.5%	44.5%	46.3%	52.6%	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(円)
売上(S)	1,747,036	1,959,023	1,700,208	1,341,496	1,409,854	1,684,288	19,777,400
仕入額	949,527	796,366	1,319,907	738,111	762,119	958,629	10,853,179
原価率	54.4%	40.7%	77.6%	55.0%	54.1%	56.9%	61.36%

## &lt;&lt; 社のざっかやさん &gt;&gt;

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
売上	507,738	539,379	292,563	279,266	246,647	228,079	
仕入額	358,270	0	0	0	0	437,911	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(円)
売上	369,592	310,232	196,321	328,096	115,812	80,720	3,495,445
仕入額	0	483,367	13,002	0	0	0	1,292,550

社のShokudoは野菜の請求書がまとめてくるので、仕入れが多い月と少ない月が出てきている。それでも、原価率が高いと感じる。

社のざっかやさんは洗剤等の日用品を仕入れたらすぐに売れるが、結果的に売れない電気関係の商品等はずっと残ったままになってしまう。

事業所:

庵(生活介護)

第1号議案2 第2種社会福祉事業-(6)

1.月別利用数 定員: 20 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	前年実	前年比
4月	22	25	305	1	1名新規利用(高校卒業後利用)	272	112%
5月	21	25	274	4		226	121%
6月	22	26	299	1	1名新規利用	235	127%
7月	22	26	308	8		268	115%
8月	22	26	283	2	1名10月末まで入院+自宅療養	254	111%
9月	22	26	302	4		305	99%
10月	22	24	246	2	2名利用終了(いま福の家へ移行、他事業所利用)	313	79%
11月	22	23	294	3	1名利用終了(長期入院、退院の目途が立たず)	281	105%
12月	22	24	289	11	1名新規利用(今福事業所から移行) 1名入院+自宅療養	299	97%
1月	20	24	251	8		260	97%
2月	20	24	247	3		271	91%
3月	23	24	311	4		319	97%
合計	260	297	3,409	51	実績月平均: 284.1 人 1日平均: 13.1 人	3,316	103%
							前年度平均12.7名

2021年度は3名利用終了、1名入院と自宅療養、サ高住への引っ越し者が新型コロナウイルスの影響で利用者の外出禁止等と、またコロナに対する警戒も含めて利用が減ったが、新規利用者2名(週1、週2→3)もあり前年度より平均利用人数は若干上回った。  
また新型コロナウイルスの感染者も後半利用者2名、スタッフ2名出た。加えてスタッフの家族が感染するケースもあり、人員が足りない時期もあったがなんとか乗り切ることが出来た。

## 2.利用者

## (1)所持手帳

療育手帳のみ	3
身体障害者手帳のみ	7
精神保健福祉手帳のみ	1
療育・身体障害者手帳	16
療育・精神保健福祉手帳	0
身体障害者・精神保健福祉手帳	0
療育・身体障害者・精神保健福祉手帳	0
合計(人)	27

## (2)障害支援区分

区分	割合	人
6	59%	16
5	26%	7
4	7%	2
3	7%	2
2	0%	0
1	0%	0
非該当	0%	0
未認定	0%	0
合計		27

## (3)利用者の性別/年齢

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
割合	4%	7%	19%	19%	15%	37%	100%
男性	1	1	3	0	1	4	10
女性	0	1	2	5	3	6	17
合計	1	2	5	5	4	10	27

## (4)医療的ケアのある方の状況

	医療的ケア	利用曜日
男性(19歳)	カニューレ内吸引、胃ろう	水
男性(29歳)	カニューレ内吸引、腸ろう	月火水木金
女性(29歳)	口腔内吸引、胃ろう	月火金
女性(48歳)	口腔内吸引、胃ろう	月火木金

医療的ケアについては前年度利用者は4名。うち2人は法人内の下宿屋も利用している。新規利用者獲得は勿論だがまず現状利用している利用者の曜日を増やせたらと考える。

### 3.行事・祝日開所企画等

#### (1)内容

4月	花見
5月	-
6月	-
7月	七夕
8月	夏祭り
9月	そうそうの杜ポッチャ大会

10月	そうそうの杜大運動会
11月	-
12月	クリスマス会、忘年会
1月	書き初め、初詣
2月	節分
3月	花見

#### (2)祝日開所

平均利用者数	12.5	人
--------	------	---

祝日開所や年末に関しては平日と通常通り開ける事によって本人や家族のニーズに答える事が出来た。平日とほぼ変わらない利用人数であった。大きな企画等は立てなかったが入浴の希望などに応えることが出来た。次年度も継続して続けたい。

### 5.総括

前年度とスタッフ体制も少し替わり、またサービス管理責任者が継続して他部署のヘルプに出ている事が多く、チームとして満足できる支援を行う事ができなかった。主に人材育成、チーム作りに関して弱くなってしまったが、逆にいい事によってスタッフが育った部分もあつたりと両方見られた。毎年課題に上がる利用人数に関しては引越しやコロナウイルスの影響で警戒の為休み等により減少傾向にあつたが、新規利用者もあり最終日の平均利用人数はどうにか前年度を上回った。

## (1) 月別利用数 定員： 20 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	昨年度実績
4月	21	21	392	8		387
5月	21	21	373	15		379
6月	22	21	420	8		405
7月	22	21	412	9		423
8月	22	21	409	7		376
9月	22	21	399	5		393
10月	22	21	394	8		428
11月	22	21	391	11		387
12月	22	21	408	4		408
1月	20	21	366	8		373
2月	20	21	346	3		380
3月	23	21	401	8		440
合計	259	252	4711	94	実績月平均： 392.6 名 1日平均： 18.2 名	4779 名

この一年を通して、新規利用者及び利用終了者は無し。  
9月～11月にかけて、2名ほど入院になったことと、1月中旬から3月にかけて、他法人のケアホーム入居の利用者1名が、コロナウイルス感染症警戒のためケアホームで過ごしていたこと。利用者1名が週5日から週4日に利用日を減らしたことが、実績日数の減少に繋がっている。

## (2) 障害の状況 (主たる障害にて明記)

## ① 知的障害

A	B1	B2	合計
20	1	0	21

## ② 身体障害

1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
2	3	1	1	0	1	7

## ③ 精神障害

1級	2級	3級	合計
1	0	0	1

昨年度からの変更はなく、21名中20名がA判定のまま。割合としてはA判定が95%を超えている。  
その他、身体障害、精神障害ともに変更は無かった。

## (3) 障害支援区分

6	5	4	3	2	1	非該当	認定なし	合計
15	4	1	1	0	0	0	0	21
71%	19%	5%	5%	0%	0%	0%	0%	

今年度の認定調査で、利用者1名が区分4⇒区分3に変更になっている。  
それが要因となって、平均支援区分が昨年度5.61から5.57と若干下がっているものの、高い数値を保っている。

## (4) 利用者の性別/年齢

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男性	0	5	4	5	0	1	15
女性	0	1	0	3	1	1	6
合計	0	6	4	8	1	2	21
割合	0%	27%	18%	36%	5%	9%	—

平均年齢は昨年度38.1歳⇒39.1歳。  
新規の利用者、及び利用終了者はおらず、平均年齢は1歳上がっている。  
65歳以上の高齢の利用者は2名在籍。

(5) 利用年数 平成25年3月1日開所

	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4～5年未満	5～6年未満	6～7年未満	7年以上	合計
男性	0	0	2	0	1	0	0	12	15
女性	0	0	0	0	0	1	0	5	6
合計	0	0	2	0	1	1	0	17	21
割合	0%	0%	9%	0%	5%	5%	0%	77%	—

利用年数7年以上の利用者が17名。割合としては3/4以上となっている。  
例年の傾向であるが、利用者の障害特性上、他の他事業所への利用変更は少ない。長期間継続しての利用者が多い事が特徴である。

(6) 利用者居住区

城東区	鶴見区	旭区	都島区	東成区	その他	大阪府下	合計
14	4	0	1	0	2	0	21
64%	18%	0%	5%	0%	9%	0%	—

この一年で変更は無し。  
その他の2名については、いずれも北区居住である。

(7) 月別行事

4月	花見	10月	運動会
5月		11月	
6月		12月	忘年会
7月		1月	初詣
8月	夏祭り	2月	
9月	そうそうの杜 ポッチャ大会	3月	大阪城公園

新型コロナウイルス感染症の影響でマスク着用をいわれている場所が多く、昨年度に引き続きなかなか実施できていない。  
実施しにくい状況ではあったが、スタッフの工夫次第では、なんらかのかたちでもっとできたはずで、そこは反省点として次年度に繋げていく。

まとめ

利用人数については、1日平均が18.2名と、昨年度の18.4名から0.2名減少している。  
要因としては、(1)月別利用者数の欄に記入しているとおりであるが、新型コロナウイルス感染症に起因する不安定な状況からすると、利用人数の確保はできていた。  
新型コロナウイルス感染症に関しては、マスクを着用してくれる利用者が少なく、その他の感染対策も難しい利用者が多い中、げんげん内での感染自体は出ることはなかった。  
日中活動については、活動自体の内容は前年度と変わってはいないが、内容に利用者自体がなれてきたことに加えて、スタッフが盛り上げることが徐々にできるようになってきている。  
個別対応に関しては、スタッフの人員の数の影響が大きく、当初考えていたほどの時間はとれていない。その中でもじっくりと利用者向き合うことで、利用者の新しい面、今まで分かっていなかった面を知ることができ、スタッフ間で対応等を考えていくことができたのは収穫ではあった。  
事故防止に関しては、今年度も病院で治療を受けるような怪我等は起こらなかった。例年通り怪我の数は少ないわけではなく、環境の整備とともに、新しいスタッフにチームとしてどのような動きをとれば、リスクを軽減できるのかを伝えていっている。



事業所:

創奏(生活介護)

第1号議案2 第2種社会福祉事業-(8)

## 1.月別利用数 定員: 20 名

	開所日数	登録者数	実績	欠席加算	備考	前年実	前年比
4月	22	19	377	6		406	93%
5月	21	19	307	1		363	85%
6月	22	19	394	8		431	91%
7月	23	19	378	6		436	87%
8月	21	19	344	13		378	91%
9月	22	19	346	3		391	88%
10月	22	19	393	1		411	96%
11月	21	19	367	17		365	101%
12月	20	19	348	3		385	90%
1月	20	19	265	7		334	79%
2月	20	19	277	2		360	77%
3月	23	19	305	0		437	70%
合計	257	228	4,101	67	実績月平均: 341.8 人 1日平均: 16.0 人	4,697	87%

登録人数は変わらずで、皆体調も崩すことなく通所できた。しかし新型コロナウイルスの影響もあり、利用控え等で全体的に利用人数が減少した。また年度後半から心身の不調から来れなくなった利用者が1名

## 2.利用者

## (1)所持手帳

療育手帳のみ	17
身体障害者手帳のみ	0
精神保健福祉手帳のみ	0
療育・身体障害者手帳	2
療育・精神保健福祉手帳	0
身体障害者・精神保健福祉手帳	0
療育・身体障害者・精神保健福祉手帳	0
合計(人)	19

## (2)障害支援区分

区分	割合	人
6	16%	3
5	32%	6
4	42%	8
3	5%	1
2	5%	1
1	0%	0
非該当	0%	0
未認定	0%	0
合計		19

## (3)利用者の性別/年齢

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
割合	0%	47%	16%	16%	16%	5%	100%
男性	0	5	1	2	2	1	11
女性	0	4	2	1	1	0	8
合計	0	9	3	3	3	1	19

新規の利用者が増えなかったため、前年度と変わらず。若い利用者が多いのが特徴である。また70代半ばの利用者が1名いるので次の展開を考える。

### 3.行事・祝日開所企画等

#### (1)内容

4月	花見
5月	-
6月	-
7月	-
8月	夏祭り
9月	-

10月	運動会
11月	-
12月	クリスマス会
1月	初詣
2月	-
3月	-

#### (2)祝日開所

平均利用者数	12.3	人
--------	------	---

新型コロナウイルス流行の影響は大きく、例年行っていた一泊旅行等は本年度も実施を見送った。外出行事に関しても少ししかできなかった。来年度は状況を見ながら年中行事を増やしていく。

### 4.工賃

	作業収入	工賃支出	工賃還元率
4月	57,043	46,834	82%
5月	40,019	33,020	83%
6月	68,031	25,910	38%
7月	73,736	23,490	32%
8月	82,658	28,970	35%
9月	85,500	29,490	34%
10月	92,398	31,050	34%
11月	97,974	25,720	26%
12月	100,151	39,080	39%
1月	65,740	18,810	29%
2月	83,645	28,620	34%
3月	106,369	54,710	51%
賞与	0	-	-
合計	953,264	385,704	40%

工賃月額	人
30,000円以上	0
30,000円未満	0
20,000円未満	0
10,000円未満	1
5,000円未満	18

平均工賃月額	1,692 円
--------	---------

※利用率80%以上の利用者を対象

工賃改定、作業以外の日中活動の増加等もあり、工賃額自体は減少するも月々で大きく変動することなく安定している。工賃が楽しみになっている利用者もいればそうでない利用者もいる。

### 5.総括

まず第一に創奏としては、チームとしての動きや連携が不十分であった。またスタッフ個々の意識や人材育成に関して満足は行くものとはいえない年だったので次年度の大きな課題となった。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う影響(利用人員減・活動内容や規模の縮小等)が大きい年度であったといえる。幸いにも事業所内での罹患者はおらず、事業所内で行っていた感染対策は一定の効果があった。

来年度は創奏のあり方を見つめ直し、コロナの動向も見ながら各種活動や行事の再考、再開を目指しつつ、新しい活動や、新規利用者も視野に入れながら、思いのあるチームと環境を作り上げていく。

事業所:	いま福の家(共生型生活介護/地域密着型通所介護/介護予防型通所)
------	----------------------------------

第1号議案2 第2種社会福祉事業-(9)

今年度も継続して他部署からのヘルプを要請してのスタートであった。新しいスタッフも入りまた形作りからのスタートであった。チームとして、また人材育成に関してもまだまだと感じた1年であった。

例年の課題であった利用人数について、1日当たりの平均利用者数は4月で7.5名。年度後半には平均利用人数が9名を超え、定員の10名に近づける事ができた。登録人数は増えてないが利用日が増えたことにより一日当たりの利用人数が増えた。長年利用していた利用者が施設に入所したことにより、より高齢になっていく利用者の今後を考えさせられた1年であった。

地域密着型という観点から地域の方の利用があれば良かったが希望がなかった。またコロナ渦のためあつて地域の方との運営推進会議は1回しか開催できなかった。

(1) 月別利用数 定員: 10 名

	開所日数	登録者数	実績	1日平均	備考
4月	26	15	196	7.5	1名利用終了(入所)
5月	26	15	196	7.5	
6月	27	16	201	7.4	1名新規利用(週2、げんげんより)
7月	27	16	204	7.6	
8月	26	15	211	8.1	1名利用終了
9月	26	15	227	8.7	
10月	26	15	238	9.2	
11月	26	15	233	9.0	
12月	26	15	242	9.3	
1月	24	15	221	9.2	
2月	24	15	210	8.8	
3月	27	15	240	8.9	
合計	311	182	2,619	8.4	実績月平均 : 218.3 名 1日平均 : 8.4 名

昨年度実績	
実績	日平均
218	8.4
213	8.2
209	8.0
221	8.2
226	8.7
222	8.5
250	9.3
232	9.3
247	9.5
227	9.5
230	9.6
241	8.9
2,736	8.8

開所日は月～土で年末年始以外は祝日も開所している。平均開所日数は 日、登録者数は年間通して15～16名。新規の利用者は法人内部から1名あったが、退所者も2名いた。平均利用人数も水～金はほぼ10名定員一杯で、平均利用人数も 名と安定した1年だった。新型コロナウイルスの影響は殆ど見られなかった。

4月には長年そうそうの杜を利用していた利用者が施設入所のため退所した。1名はコロナ警戒の為休止している(週1回隔週利用)利用者が利用終了した。また同法人の生活介護(げんげん)からの利用者が週2回の利用に繋がった。

(2) 要介護度(通所介護利用者)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
5	2	1	0	2	0	1	11
45%	18%	9%	0%	18%	0%	9%	—
7 (64%)		4 (36%)					11

障害種別(共生型生活介護のみ利用)

知的障害	視覚	聴覚	内部	肢体不自由	精神	合計
3	0	0	0	0	1	4

障害種別(通所介護、共生型生活介護/重複含む)

知的障害	視覚	聴覚	内部	肢体不自由	精神	介護保険のみ
5	3	0	0	0	1	6

登録利用者は介護保険では要支援7名、要介護4名、障害福祉サービスのみは4名である。要介護者別では要支援と要介護1の軽度の利用者が8名で約7割が多い。また視覚障害者が要支援で2名、要介護で1名、合計3名と比率としては高く、通常の配慮にプラスして物の位置や説明などにおいて他利用者以上の配慮を必要とする状態であった。

(3) 利用者の性別/年齢

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	85歳以上	60歳以下	合計
男性	1	3	3	0	1	8
女性	2	2	2	0	1	7
合計	3	5	5	0	2	15
割合	20%	33%	33%	0%	13%	—

利用者は男性8名、女性7名で、男女比はほぼ同じ状況である。年齢別では男女合わせても利用者は70～74歳と75～79歳の利用が同数で66%となっている。最高齢は女性で77歳である。

(4) 利用年数 2018年 5月 1日開所

	1年未満	1～2年未満	2～4年未満	合計
男性	0	3	5	8
女性	0	0	7	7
合計	0	3	12	15

(5) 利用者居住区

城東区	鶴見区	旭区	都島区	東成区	その他	大阪府下	合計
14	0	1	0	0	0	0	15
93%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	—

ほとんどの利用者が蒲生近辺に居住している。送迎車に軽自動車(車イス1台+2名乗車、または最大3名乗車)を用い、週4日は1日当たり2～3往復し、週2日は他部署との連携や、10人乗りの車両を使用し、送迎におけるロスを減少した。

(6) 月別行事

4月	お花見	10月	そうそうの杜運動会
5月	野菜植え	11月	—
6月	—	12月	そうそうの杜忘年会
7月	—	1月	初詣
8月	そうそうの杜ポッチャ大会	2月	—
9月	野菜収穫祭	3月	梅見

今年度も事業所単体の行事としては、各利用者の誕生日会や近隣への外出など小規模なもののみで、法人主催の行事に参加して貰った。コロナの影響を考え外出行事等を控え、企画する事ができなかった。

事業所:

伝(児童発達支援)

第1号議案2 第2種社会福祉事業-(10)

1.月別利用数 定員: 10 名 (※定員については放課後等デイサービスを含めた人数)

	開所日数	登録者数	実績	代替	欠席加算	備考	前年実	前年比
4月	22	3	15	0	2		64	23%
5月	20	3	13	0	2		62	21%
6月	21	3	18	0	0		67	27%
7月	22	3	22	0	0		64	34%
8月	20	3	18	0	1		54	33%
9月	21	3	13	1	0		62	21%
10月	21	3	4	0	0		58	7%
11月	20	2	3	0	0	利用終了1名	52	6%
12月	20	2	2	0	0		63	3%
1月	19	2	6	1	1		67	9%
2月	19	2	15	0	0		69	22%
3月	22	3	9	0	0	新規利用1名	75	12%
合計	247	-	138		6	実績月平均: 11.5 人 1日平均: 0.6 人	759	18%

・昨年度利用回数が多かった児童が2021年度から放課後等デイサービスに変わったことと新規利用者も3月に1名だけであったことで児童発達としての利用実績は大きく減少した。11月の終了者については保育所と併用しての利用であったが本人の希望もあり保育所だけの利用となったためである。現在利用中の児童2名は兄弟で10月以降からは複数の事業所を利用することとなり伝は不定期の利用となった。新型コロナウイルス感染症の影響としては元々利用回数が少ないことや代替支援も行うこととなり大きな影響はなかった。

## 2.利用者

## (1)所持手帳

手帳なし	2
療育手帳のみ	-
身体障害者手帳のみ	-
精神保健福祉手帳のみ	-
療育・身体障害者手帳	1
療育・精神保健福祉手帳	-
身体障害者・精神保健福祉手帳	-
療育・身体障害者・精神保健福祉手帳	-
合計(人)	3

## 手帳の等級

療育手帳	
身体障害者手帳	1級:1名
精神障害者手帳	-

## 支給量等(加算)

加算個別サポート	1名
加算強度行動障害	-

※現在伝では加算強度行動障害の加算は取ることは不

## 医療的ケア児

1名(経鼻経管栄養、鼻腔内・口腔内喀痰吸引)

## (3)利用者の性別/年齢

	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
割合	33%	33%	0%	0%	33%	100%
男性	0	1	0	0	1	2
女性	1	0	0	0	0	1
合計	1	1	0	0	1	3

今年度新たに医療的ケアが必要な児童が利用となった。

### 3.行事・祝日開所企画等

#### (1)内容

4月	お花見
5月	タオル作り
6月	雨具づくり
7月	水遊び
8月	プール
9月	絵を描く

10月	運動会
11月	秋の遠足
12月	クリスマス
1月	初詣・書初め
2月	節分
3月	ひな祭り

#### (2)祝日開所

平均利用者数	0.4	人
--------	-----	---

※長期休みの間の祝日は除く

今年も引き続き新型コロナウイルスの感染対策を意識した上での活動となった。そのため遠足などの外出行事は見送ることにした。しかし、それ以外の行事については新しい活動をしたり、毎年行っている活動も個々で出来る時にするのではなく、活動の時間を取って行ったことは本人への良い刺激にもなった。2名の児童は不定期での利用で収入の面からみると不安定であるが家族支援という部分では伝としての役割は必要であり継続していく。しかし主軸である早期療育という点を考えると機能出来ていない部分は大きい。

3月から新たに医療的ケアが必要な児童が利用となった。10月には利用希望で相談に来られていたが、その時期に法人全体で医療的ケアが必要となった利用者が数名重なり、順次実施研修等を行っていったこともあり受け入れ体制を整えるのに時間が掛かってしまった。しかし他児童らと変わらず同じ城東区に住む児童の居場所として伝を利用してもらいたい想いはあったので新たに事業申請を行い、利用へと繋がった。

しかしそれでも収入面はほぼ放課後等デイサービスの利用で賄っている状態である。児童発達支援の利用者を増やすことは今後の課題である。

### 5.総括

昨年度と比較すると児童発達の利用児童が激減している。昨年度まで主に利用していた児童3名はそのまま放課後等デイサービスとして伝を利用継続しているとは言え児童発達の児童の人数確保は大きな課題である。11月に利用終了した児童は元々保育所と併用をしていたが本人が保育所に行きたいという訴えがあったため利用終了となった。保護者の希望としては継続して利用したかった思いもあると話していただいたため、今後何かあれば関わっていきたい。現在利用中の児童2名は不定期の利用であるが「早期療育」「継続した関り」の重要性を考えてもう一度定期利用へと繋げたい。そのためには伝として何ができるのか、何をするのかを本人、家族に理解してもらうことが必要であり、信頼できる関係を深めていくためスタッフ一人ひとりが支援者としての質を高めていかななくてはならない。

収入面から見ると現状では併用している放課後等デイサービスで補っているかたちとなる。

現在は定期での利用希望のあった医療的ケアの必要な児童を受け入れるために喀痰吸引の資格取得、申請の受け入れ体制を整え3月より利用開始。今後も医療的ケアが必要な児童に対しても本人、家族が安心して地域で生活できるよう積極的に受け入れていけるよう努めたい。

事業所:	伝(放課後等デイサービス)
------	---------------

1.月別利用数 定員: 10 名 (※定員については児童発達支援を含めた人数)

	開所日数	登録者数	実績	代替	欠席加算	備考	前年実	前年比
4月	22	21	194	4	6	1名利用終了	140	139%
5月	20	21	191	5	6		145	132%
6月	21	21	197	8	2		158	125%
7月	22	22	204	1	5	1名新規利用	141	145%
8月	20	22	207	0	10		148	140%
9月	21	23	219	15	3	1名新規利用	142	154%
10月	21	23	200	0	9		147	136%
11月	20	23	187	0	8		148	126%
12月	20	23	209	0	2		106	197%
1月	19	23	192	19	4		114	168%
2月	19	23	161	24	10		117	138%
3月	22	20	206	19	1	3名利用終了	135	153%
合計	247	-	2,367	95	66	実績月平均: 197.3 人 1日平均: 9.6 人	1,641	144%

・4月終了者は以前から通所が難しいこともあったものの最近落ち着いて過ごせており連絡を取り合うこともほぼなくなったため一旦終了とした。3月には高校卒業のため2名と現在高校2年生で進路先を考えている事業所の放課後等デイサービスを慣らしも含め利用することになり伝を利用終了することとなった。  
 ・7月からの新規利用者は以前(未就学児の頃)に一度伝を利用していた児童であり終了して以降はデイサービス等の利用はしていなかった。しかし本人が伝をもう一度利用したいという希望で利用再開となった。繋がりが切れていなかったということは本当に有難い。このようなケースがあることは1人ひとりその時の出会いを大切に関わっていた結果だと感じている。9月の新規利用者は新型コロナウイルス感染症の影響で利用可能な場所を増やしたいとの理由である。  
 ・昨年度の利用実績は1641名で今年度は2367名。昨年度よりも大幅に増えているのは、昨年度は児童発達支援でほぼ毎日利用していた児童3名が放課後等デイサービスの利用と変わったためである。新型コロナウイルスの影響で利用人数が減ることもあったが、「代替支援」というかたちで利用する児童がいたことで利用実績は大きく減ることはなかった。  
 ・今年も、毎日利用している児童1名が2月～3月の間でリハビリ入院をしておりその分の実績が下がった。  
 ・4月の開始時点での登録は22名であったが、昨年からの新規利用者が新たに増えたということではなく昨年度までは児童発達支援として利用があった児童が継続して放課後等デイサービスとして伝を利用したことによるものである。  
 ・定期利用以外でも必要に応じて利用を追加する児童が数名いたことで単発的だが実績を上げることが出来ている。

## 2.利用者

### (1)所持手帳

手帳なし	1
療育手帳のみ	15
身体障害者手帳のみ	-
精神保健福祉手帳のみ	1
療育・身体障害者手帳	6
療育・精神保健福祉手帳	-
身体障害者・精神保健福祉手帳	-
療育・身体障害者・精神保健福祉手帳	-
合計(人)	23

### 手帳の等級

療育手帳	A:13名、B1:4名、B2:3名
身体障害者手帳	1級:3名、2級:1名、3級:1名
精神障害者手帳	2級:1名

### 支給量等(加算)

加算個別サポート	11名
加算強度行動障害	5名

※現在、伝では強度行動障害の加算は取ることは不可

### 医療的ケア児

-
---

## (2) 利用者の性別/年齢

	小学生(1~3年)	小学校(3~6年)	中学生	高校生	合計
割合	39%	0%	22%	30%	91%
男性	6	1	1	5	13
女性	3	1	4	2	10
合計	9	0	5	7	23

## (3) 利用者居住区と在籍する学校

城東区	鶴見区	旭区	都島区	東成区	その他		合計
21	2	0	0	0	0		23

生野支援学校小学部	0	生野支援学校中学部	1	生野支援学校高等部	1
思斉支援学校小学部	1	思斉支援学校中学部	4	思斉支援学校高等部	3
光陽支援学校小学部	0	光陽支援学校中学部	0	光陽支援学校高等部	2
城東小学校	3			東朋高等専修学校	1
聖賢小学校	2				
今福小学校	1				
成育小学校	1				
鯉江小学校	2				
鯉江東小学校	1				
小学生合計	11	中学生合計	5	高校生合計	7

- ・半数以上が療育手帳A判定の児童であり、うち2名は身体障害者手帳1級でもある重症心身障害児である。
- ・軽度障害の利用児童が減少している。
- ・登録している児童のほぼ半数が個別サポート加算の対象であり、利用実績の6~7割を占める。



### 3.行事・祝日開所企画等

#### (1)内容

4月	お花見
5月	タオル作り
6月	雨具づくり
7月	水遊び
8月	プール
9月	絵を描く

10月	運動会
11月	秋の遠足
12月	クリスマス
1月	初詣・書初め
2月	節分
3月	ひな祭り

#### (2)祝日開所

平均利用者数	9	人
--------	---	---

※長期休みの間の祝日は除く

祝日の開所については単発的な用事等で休むことはあったものの、平日同様にほぼ変わらず利用希望があった。朝からの利用になるため集団で活動する時間が取れた。土曜日利用以外は長期休みの時にしか午前中からの長時間利用ではないため食事や活動の様子など見ることができ、知る機会が増えたことは良かった。

新型コロナウイルスの影響で今年は外出行事や活動としてクッキングは控えた。そのためそれ以外の活動で楽しめるものを考え、染料を使ってのタオル作りなど普段出来ない活動を取り入れた。

### 5.総括

今年度も引き続き新型コロナウイルスが生活環境に影響を与えた年となった。特にオミクロン株に関してはひととき影響が強く、伝の児童も数名感染した。ただ、現状では後遺症は見られないだけでも本当に良かったと思える。学校も陽性者が出れば濃厚接触者の特定や消毒作業のため休校等の措置を取ることが多かった。その間は外出は控えることとなり、家族も急な対応を余儀なくされていた。本人、家族共に負担が増えてしまっていたように感じる。保護者はそのような時や感染予防の想いから事業所の利用を控えることとなるので本当に大変だったと思う。ただ、少しでも協力できることがあればという想いと今後も継続した利用が出来るよう代替支援というかたちで電話等を行い、本人だけでなく家族も含めた支援を途切れさせないように行ってきた。

利用している児童は可能な限りマスクを着用してもらい、検温や消毒、密を避けるなど基本的な事は徹底して協力してもらった。今では昨年から行っている感染予防のための酸性水を使った消毒作業や検温等は児童らも日課となり自主的に行っている児童もいる。このことから我々が継続して取り組むことによって児童らが意識づくことの大切さを改めて理解した。

今年は新型コロナウイルスに怯えるだけでなく感染予防に取り組みながらお楽しみ会や法人全体の行事もあり、積極的に参加した。貴重な1年という期間を少しでも充実した時間を作ることを意識した年であった。行事だけでなく日々の活動内容も改善を行い、個々に課題を設定して行う個別活動も昨年より時間を作り取り組んだ。しかし、我々スタッフもまだまだ勉強不足であることも痛感したため日々学び、更なる成長が必要である。

今年度の新規利用者2名は利用前より保護者とも関りがあったため利用へと繋がった結果である。全く伝を知らない新規利用の相談に関しては見学はあったものの利用へと繋がらなかった。1件は本人の状態を考えた上でまずは小学校生活を優先させることで利用は一旦見送ることとなった。その他の相談者は見学を行った際に「同年代の児童との『関わり』」「自分の子供と同程度の障害のある児童が多くいる事業所」を求めているようで利用まで至らなかった。放課後等デイサービスが数多く存在する中でその児童に合った場所を選択できるという点では良いことであるが、伝として何故選ばれなかったのか、どうすれば利用へと繋がる魅力的な事業所になるのかを考え発信していかななくてはならない。そして今までと変わらず誰もが利用できる事業所であり続けたい。

事業所:	ホームヘルプセンターとことこつ (居宅介護・重度訪問介護・同行援護/移動支援)
------	--

2021年度についてもコロナウィルスへの感染症対策でヘルパーが感染源にならないように手洗いや消毒の徹底、体調管理等に神経をつかった1年であった。  
 年度後半には、利用者の感染者が出たことをきっかけにヘルパーの感染者も続々と発生し、対応に追われる事となった。  
 ヘルパーの派遣については、ヘルパーの不足や利用者の高齢化、家族状況の変化、ヘルパー自身の高齢化等もあり、利用者の絶対数に対してヘルパーが不足、個々のニーズに答える事が難しい状態が今年度も続いた。また、ヘルパーの質については、入職年数の浅いスタッフで構成されている事もあるが、自立支援型ではなく、お世話型の支援が大半をしめた支援となってしまう。  
 「その人らしい生活」を住み慣れた地域で継続できる事を考え支援していく事を重視しているが、ヘルパー自身も決められた時間に決められた事を行うだけの支援を行い、そのことに疑問を持てる人材も少なくなっている現状がある。  
 利用者一人一人のその人らしい生活を創り出すという視点を考える事ができるヘルパーを時間をかけて育成していく事が前年度からの大きな課題となっている。

1.年齢別利用状況(令和3年4月利用者/重複あり/提供時間)

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64	65～74	75以上	合計	提供時間数
居宅介護	0	0	8	14	15	16	9	14	2	78	16628.5
重度訪問	0	0	3	4	9	5	1	2	1	25	31026
同行援護	0	0	0	0	1	7	1	7	3	19	2073
移動支援	0	1	14	17	23	16	6	12	3	92	7663.5
合計	0	1	25	35	48	44	17	35	7	212	57391
	0%	0%	12%	17%	23%	21%	8%	17%	3%	100%	

■高齢者が増加しており、60代以上が約3割であり、利用者の高齢化が進んでいる。

2.福祉サービス別年齢別男女内訳

居宅介護	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64	65～74	75以上	合計
男性	0	0	6	4	8	13	3	10	1	45
女性	0	0	2	10	7	3	6	4	1	33
合計	0	0	8	14	15	16	9	14	2	78
	0%	0%	10%	18%	19%	21%	12%	18%	3%	100%

■家族の高齢化や単身世帯への移行等、生活スタイルの変化もあり40代以上が7割をしめる。

重度訪問介護	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64	65～74	75以上	合計
男性	0	0	2	2	4	2	1	1	1	13
女性	0	0	1	2	5	3	0	1	0	14
合計	0	0	3	4	9	5	1	2	1	25
	0%	0%	12%	16%	36%	20%	4%	8%	4%	100%

■座のスタートと重度訪問介護への移行者もあり、昨年度より提供時間数が1800時間増加している。

同行援護	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64	65～74	75以上	合計
男性	0	0	0	0	0	2	0	3	1	7
女性	0	0	0	0	1	5	1	4	2	12
合計	0	0	0	0	1	7	1	7	3	19
	0%	0%	0%	0%	5%	37%	5%	37%	16%	100%

■中高年層が中心となっている。

移動支援	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64	65～74	75以上	合計
男性	0	1	12	9	14	13	3	7	2	61
女性	0	0	2	8	9	3	3	5	1	31
合計	0	1	14	17	23	16	6	12	3	92
	0%	1%	15%	18%	25%	17%	7%	13%	3%	100%

■コロナウィルスの影響とヘルパーの絶対数の不足から昨年度より700時間減少している。

### 3.利用者所在地状況

所在地	城東区	鶴見区	平野区	東成区	北区	浪速区	旭区	此花区
利用者合計	146	13	2	2	2	0	3	1
	82.0%	7.3%	1.1%	1.1%	1.1%	0.0%	1.7%	0.6%

  

所在地	生野区	福島区	大正区	港区	東淀川	都島	淀川	その他	合計
利用者合計	0	2	0	6	1	1	1	2	178
	0.0%	1.1%	0.0%	3.4%	0.6%	0.6%	0.6%	1.1%	100%

■城東区が8割を占める。他区に関しては、現地に近い登録ヘルパーが主に対応している。

### 4.登録抹消利用者状況

T.Y	40代女性	重度訪問介護	サービス付高齢者住宅入居の為
U.S	40代男性	移動支援	入所施設入所の為
N.S	20代女性	移動支援	ヘルパー退職により他事業所へ移行
M.J	20代男性	居宅介護	一人暮らしが安定したため
K.T	80代男性	居宅介護・同行援護	有料老人ホーム入居の為
M.K	60代男性	居宅介護・同行援護	特別養護老人ホーム入居の為

### 5.新規利用者状況

K.M	20代女性	居宅介護
S.E	20代女性	重度訪問介護
T.S	40代女性	居宅介護
N.K	50代男性	居宅介護
M.Y	20代女性	居宅介護
Y.K	60代男性	同行援護
M.K	70代男性	居宅介護

■新規利用の問い合わせは、月平均2～3件。早朝帯・深夜帯の身体介護の依頼や土日祝の移動支援や同行援護の依頼が多く、人材不足と宿直等の兼ね合いもあり、中々新規利用を受ける事ができていない。

## (1)月別利用数 定員: 5名

	開所日数	利用人数 合計	緊急受け 入れ回数	新規 利用者数	見学	1日利用 平均	前年度 実績	比率	備考
4月	30	109	1	2	0	3.6	88	124%	
5月	31	101	7	1	0	3.3	95	106%	
6月	30	108	7	1	0	3.6	117	92%	
7月	31	130	5	1	0	4.2	111	117%	
8月	31	107	11	0	0	3.5	120	89%	
9月	30	96	0	3	0	3.2	103	93%	
10月	31	87	0	1	1	2.8	148	59%	
11月	30	88	0	0	0	2.9	124	71%	
12月	31	117	9	0	0	3.8	109	107%	
1月	31	159	23	4	1	5.1	128	124%	
2月	28	91	9	1	1	3.3	127	72%	
3月	31	104	4	0	0	3.4	134	78%	
合計	365	1,297	75	11	3	3.5	1,404	92%	

前年度より総利用者数は減少している。減少理由はコロナウィルス感染症による利用自粛である。しかし、緊急受け入れ、新規利用者などは前年度より増えている。緊急受け入れ理由は、怪我、家族のコロナ感染、精神的な不調、退院後の要観察など多岐にわたる。

## (2)障害の状況

## ①知的障害

A	B1	B2	合計
22	13	3	38

## ②身体障害

1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
1	1	0	0	0	0	2

## ③精神障害

1級	2級	3級	合計
0	3	1	4

## ④重複障害

知的・身体	知的・精神	身体・精神	身体・知的・精神	不明	合計
17	2	0	1	3	23

法人内の事業所利用の利用者が多い為、圧倒的に知的障害が多い。67名中55名(重複を含む)知的障害がある。

## (3)障害支援区分 \* ( )内の数値は2020年度のデータ

6	5	4	3	2	1	非該当	認定なし	合計
17(23)	10(10)	13(19)	17(15)	9(7)	1(0)	0(0)	0(3)	67(77)

## (4)利用者の性別/年齢 \* ( )内の数値は2020年度のデータ

	20歳未満	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	合計
男性	4 (5)	11 (10)	4 (6)	5 (5)	6 (5)	0 (3)	30 (34)
女性	4 (2)	9 (15)	6 (5)	9 (10)	6 (5)	3 (6)	37 (43)
合計	8 (7)	20 (25)	10 (11)	14 (15)	12 (10)	3 (9)	67 (77)

男女比率はそれほど変わらないが、利用回数は女性の方が多い傾向にある。また、重度の利用者の受け入れも多くなってきている。

(5)利用者居住区

城東区	鶴見区	旭区	北区	生野区	都島区	淀川区	その他の区	市外	合計
49	5	3	2	2	2	1	3	1	67

(6)月別行事

4月	花見	10月	法人設立10周年記念講演、運動会
5月		11月	ポッチャ大会
6月		12月	忘年会、餅つき
7月	防災訓練	1月	初詣・防災訓練
8月		2月	
9月		3月	花見

地域行事は新型コロナウイルス感染拡大の影響のため中止となり、法人内の行事に参加。それ以外は事業所内でのクッキングや誕生日会等を実施。

まとめ

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の影響から、利用者数は減っているが、緊急受け入れ回数が前年度に比べると増えている。また、他事業所からの要請で家族が新型コロナウイルスに感染した為、利用者を緊急で受け入れた。臨機応援に対応できた点では、ショートステイの役割を果たしたと考える。介護度の高い利用者の受け入れにより、個々の対応が不十分になりがちであることが例年の課題であっ

事業所:	ホームヘルプセンターとことこと (訪問介護)
------	---------------------------

介護保険の訪問介護については、障害福祉サービスの居宅介護、同行援護、重度訪問介護と共通でヘルパー派遣を行っている。すべての利用者がそうそうの杜で居宅介護支援(ケアマネ)を行っている。

1.年齢別利用状況(令和4年3月現在)と年間提供時間

年齢層	65歳以下	65～69	70～74	75～79	80代	90代	合計
人数	1	5	5	6	0	0	17
割合	6%	29%	29%	36%	0%	0%	100%

	訪問介護	予防訪問	合計
提供時間数	3324h	576h	3900h

■平均年齢は70.7歳である。(昨年度72.8歳)前期高齢者が65%を占めている。

2.要介護認定(令和4年3月現在)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	5	1	2	3	2	1	3	17
割合	30%	6%	12%	17%	12%	6%	17%	100%

新規利用者(2名)

60代女性	要介護1、就労B利用者、65歳に達したた
50代男性	要介護5、就労Bを利用、2号被保険者

利用終了者(1名)

80代女性	要支援2、施設入所のため
-------	--------------

■要支援・要介護の割合が約4:6である

3.居住地

居住区	城東区	鶴見区	東成区	都島区	旭区	合計
	16	0	1	0	0	17

■法人内の障害福祉サービスからの移行者とその家族が中心の為、城東区が大半をしめている

4.障害種別

障害種別	視覚	肢体	聴覚言語	精神	知的	特定疾患
	4	3	2	0	10	1

※重複あり

■障害福祉サービスと併用している利用者は17人中11名で、65%が障害福祉サービスを併用している。

5.ヘルパー数(障害福祉サービスと共通)

	男	女	合計
障害常勤ヘルパー	6	7	13
高齢常勤ヘルパー	1	2	3
登録ヘルパー	21	58	79
合計	28	67	95

内、障害福祉サ責7名  
内、介護保険サ責1名

※法人内他部署スタッフを除く

6.資格について(介護福祉士・ヘルパーと資格証明・各移動支援資格との重複あり)

介護福祉士	14
実務者研修(ヘルパー1級含む)	4
初任者研修等(ヘルパー2級含む)	55
居宅介護従業者資格証明(全身性)	4
居宅介護従業者資格証明(知的)	7
全身性移動	26
知的移動	15
視覚移動	43
延べ人数合計	168人

事業所:	つどいの広場 杜のこうさてん (大阪市地域子育て支援拠点事業)
------	------------------------------------

第1号議案2 第2種社会福祉事業-(15)

	実施 日数	来所者数	新規 利用者数	相談件数		講習等		地域支援活動	
				延べ 総数	実総数	回数	参加者	回数	参加者
4月	21日	大人 52人 子ども 63人	大人 6人 子ども 6人	13	13	12	大人 34人 子ども 39人		
5月	18日	大人 0人 子ども 0人	大人 0人 子ども 0人	1	1	0	大人 0人 子ども 0人		
6月	22日	大人 7人 子ども 11人	大人 2人 子ども 2人	3	3	4	大人 0人 子ども 0人		
7月	20日	大人 46人 子ども 51人	大人 9人 子ども 9人	6	6	14	大人 23人 子ども 25人		
8月	21日	大人 48人 子ども 60人	大人 9人 子ども 9人	4	4	13	大人 25人 子ども 31人		
9月	20日	大人 66人 子ども 64人	大人 17人 子ども 17人	16	16	14	大人 42人 子ども 42人		
10月	21日	大人 63人 子ども 67人	大人 9人 子ども 9人	6	6	14	大人 43人 子ども 45人		
11月	20日	大人 59人 子ども 63人	大人 8人 子ども 8人	4	4	13	大人 40人 子ども 40人		
12月	20日	大人 86人 子ども 89人	大人 13人 子ども 13人	8	8	14	大人 55人 子ども 54人		
1月	19日	大人 74人 子ども 78人	大人 4人 子ども 4人	4	4	12	大人 43人 子ども 44人		
2月	18日	大人 70人 子ども 79人	大人 5人 子ども 5人	8	8	13	大人 43人 子ども 46人		
3月	22日	大人 74人 子ども 83人	大人 13人 子ども 13人	13	13	9	大人 31人 子ども 33人		
合計	242日	大人 645人 子ども 708人	大人 95人 子ども 95人	86	86	132	大人 379人 子ども 399人		

事業所:	地域生活支援センター あ・うん (居宅介護支援)
------	-----------------------------

2021年度は、新規の利用相談が5件であったが、うち1件は利用につながらず、もう1件は利用開始が22.4月にずれ込んだため、新規利用開始としては3件である。利用終了者は2名で、他法人の高齢者施設に入居と死亡に伴う利用終了である。

介護保険と言う高齢者の制度上、仕方のない部分もあるが、昨年から引き続き他法人の高齢者施設への入居が理由で利用終了するケースが多い。更にはサ高住入所のため利用開始というケースもあった。外部資源が一概に悪いとは思わないが、そうそうの杜で対応しきれないもどかしさを感じる。法人内の委員会「高齢者の未来を考える会」で検討する機会を作っているものの、なかなか明るい未来を描けないのが現状である。

介護保険の年齢に達して要介護認定を受けた場合、日中支援を障害福祉サービス継続、ヘルパーを介護保険と障害福祉サービスとの併給という形が、生活支援を行う上で対応しやすい面がある。2022年度はたまたま65歳に達する利用者が居ないのだが、現在非該当の高齢利用者が今後該当する可能性もあるので、利用開始の際には柔軟に対応していきたい。

1.年齢別利用状況(令和4年3月現在)

年齢層	65歳以下	65～69	70～74	75～79	80代	90代	合計
男性利用者	1	1	4	3			9
女性利用者	1	5	4	5	1		16
人数合計	2	6	8	8	1		25
割合	8%	24%	32%	32%	4%	0%	100%

新規利用者(3名)

60代女性	就労Bの利用者、65歳に達したため	2021年9月
40代女性	生活介護を利用、2号被保険者(サ高住入所)	2021年9月
50代男性	就労Bを利用、2号被保険者	2021年12月

利用終了者(2名)

80代女性	高齢者施設入居のため	2022年2月
80代女性	死亡のため	2022年2月

■利用者年齢の中心は70代であり平均年齢は、67.6歳だった。(昨年度は73.5歳)  
3月誕生日で65歳に達した男性1名は、実利用が4月開始のため次年度に計上する。

2.要介護認定(令和4年3月現在)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	7	4	4	2	2	1	5	25
割合	28%	16%	16%	8%	8%	4%	20%	100%

新規利用者	介護度
60代女性	要介護1
40代女性	要介護5
50代男性	要介護5

利用終了者	介護度
80代女性	要支援2
80代女性	要介護3

■要支援の包括一部委託利用者が約半数。  
要支援～要介護1までの軽度の利用者が6割を占めている。

3.居住地

居住区	城東区	東成区	鶴見区	都島区	旭区	合計
人数	24	1	0	0	0	25

■城東区内の利用者が9割を占めている。

4.介護支援専門員配置

管理者兼介護支援専門員	1名
介護支援専門員(ヘルパー兼務)	1名(常勤換算0.5) ※常勤換算1.5人



1.事業所(北部就ポツ)について

スタッフ体制

就労支援スタッフ	3名
相談支援員(非常勤/週4日)	1名

2.登録者現状 登録者数(3月末日時点)

最近の傾向として、精神障害(発達障害含む)の方の相談が増えている。

	身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	発達障害	高次脳 機能障害	その他 (難病)	合計
在職中	31(4)	188(22)	97	36	4	0	356
求職中	22(2)	71(1)	99	36	7	3	238
活動休止中	0	9(0)	3	2	0	0	14
合計	53(6)	268(23)	199	74	11	3	608
割合	8.70%	44.10%	32.70%	12.20%	1.81%	0.49%	—

3.相談支援の推移 新規登録(2019年～2021年度)

新規相談は昨年比2名減に落ち着いた。身体障害者数は年々減少している。発達障害者数に昨年より10名増になる。

障害種別	2019年度	2020年度	2021年度	割合	昨対比
身体障害者	11	6	9	8.7%	150%
知的障害者	46	44	37	35.6%	84%
精神障害者	46	42	38	36.5%	90%
発達障害者	29	9	19	18.3%	211%
高次脳機能障害者	3	4	0	0	0
難病	1	1	1	0.9%	100%
合計	136	106	104	—	98%

4.定着支援の推移 在職者(2020年～2021年度)

ワーカー4名に対し在職者数356名で無理が生じているので、状況や優先順位を考えながら、それぞれ支援スタッフを配置し定着訪問や同行訪問に当たった。作業面での困難ケースは大阪障害者職業センターのジョブコーチ支援などを有効活用し、生活面に関しては地域の基幹相談支援センターや相談支援事業所と連携を取りながら進めていった。コロナウイルス感染症の影響によ

在職者	身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	発達障害	高次脳 機能障害	その他 (難病)	合計
2020年度	33(5)	176(20)	93	30	7	0	339
2021年度	31(4)	188(22)	97	36	4	0	356
昨対比	94%	107%	104%	120%	57%	—	105%

※在職者(356名)の本年度就職元内訳

就職先		身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	発達障害	高次脳 機能障害	その他 (難病)	合計
2020年度	一般企業	3(0)	21(3)	17	5	1	0	47
	A型事業所	2(1)	12(0)	5	2	0	0	21
2021年度	一般企業	1(0)	30(0)	16	4	0	0	51
	A型事業所	5(0)	12(5)	16	1	1	0	35
2021年度 割合	一般企業	2%	59%	31%	8%	—	—	—
	A型事業所	14%	34%	46%	3%	3%	—	—

※過去3年間の新規就職者数の変化

一般企業(53→47→51)・A型事業所(18→21→35)で、A型が増えている。→コロナ感染症の影響が大きいと思われる。

## 5.年間行事実績

- ・北部地域(都島区・鶴見区・旭区・城東区)の自立支援協議会への出席
- ・MAJT(北部地域就労支援事業所連絡会)への出席
- ・就ポツ連絡調整会議への出席(月1回)
- ・事業所ミーティング開催(月1回)
- ・北部センター運営会議開催(2021年10月)
- ・大阪市就ポツ運営会議・施設長会議(年2回)に出席
- ・地域センター併設・提携施設長会議(年4回)に出席
- ・大阪市研修(勉強会)への出席

## 6. 総括

- ・精神・発達障害者に対する支援の充実を強化  
発達障害の特性の整理、精神症状のフォローなどを踏まえ、ワーカーの質の向上を目指し研修にも積極的参加させてきた。一般就労に繋がるまでの期間及び定着するまでの期間が長期化するケース多い為、一人一人の支援に時間をかけて取り組み、精神・発達障害者への支援の充実・強化に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組み  
コロナ感染症により、訪問の中止要望や在宅勤務者の増加で定着支援や面談が難しくなった。定着支援はできる限りリモート面談に切り替え対応、関連会議等リモートでの開催が多くなった。
- ・「M(都島)A(旭)J(城東)T(鶴見)」(大阪市北部地域就労支援事業所連絡会)の関係強化就労系事との関係強化を図るため立ち上げた「MAJT」も、現在50事業所と4区基幹相談支援センターの54団体が加盟している。これまでは、年1回の就労支援フェスタの開催と定例会や勉強会など精力的な活動を行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、リモートによる定例会と勉強会などのみの活動になった。当センターは事務局として携わり、各事業所と連携強化を図りながら交流を深め、就労支援にも繋げている。
- ・ハローワークとの関係強化  
就ポツとハローワークが連携強化することにより、安心して相談頂ける環境づくりや就職への道づくりに取り組んだ。それを具体化する為、年3回実施される「就労系福祉サービス意見交換会」に参加し、関係強化に務めた。
- ・各区自立支援協議会への参加協力  
北部地域センター圏域(都島区・旭区・城東区・鶴見区)の独自性を尊重しながら、各区の自立支援協議会に参加し関係強化に務めた。その上で、各区の現状に応じた活動に積極的に関与し、登録者の皆さんにとって福祉資源の不均衡がでないように努めた。
- ・登録者の精査／整理  
年度末に608名のすべての登録者を精査した。在職者のなかには、年1回更新時のみの対応でOKの方もいるので、1年に1回の方、半年に1回の方、3ヶ月に1回の方などで分類整理した。登録のみで2年以上利用実績のない方は登録を解除した。

1. 契約内容別契約数

契約内容4種[A:生活住居契約/B:重要書類預かり/C:金銭預かり・管理/D:緊急時対応]

組み合わせ	契約者数	割合	備考
ABCD契約	28	42.4%	
ACD契約	15	22.7%	成年後見制度利用している人が多い
ABC契約	0	0.0%	—
ABD契約	3	4.5%	
AB契約	1	1.5%	
AC契約	1	1.5%	
AD契約	6	9.1%	自己管理が可能な人が多い
Aのみ契約	1	1.5%	
BCD契約	6	9.1%	本人名義で入居契約している人が多い
BC契約	0	0.0%	—
BD契約	0	0.0%	本人名義で入居契約している人が多い
Bのみ契約	0	0.0%	—
CD契約	3	4.5%	本人名義で入居契約している人が多い
Cのみ契約	0	0.0%	—
Dのみ契約	2	3.0%	本人名義で入居契約している人が多い
契約者数	66	—	

	契約者数	割合
Aを契約	55	78.6%
Bを契約	38	54.3%
Cを契約	53	75.7%
Dを契約	63	90.0%
のべ	209	—

※71名に対する割合

2. 契約者の年代別内訳

契約者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	0	6	5	10	12	6	3	42
女性	0	3	3	8	1	4	5	24
合計	0	9	8	18	13	10	8	66
割合	0.0%	13.6%	12.1%	27.3%	19.7%	15.2%	12.1%	—

3. まとめ

そうそうの社の特徴は、障害のある人が地域生活を行う為の仕組みづくりとその人数の多さである。障害のあるなし関係なく、私たちと同じように地域の中で生活し、社会の一員として生きていくことが重要と考えている。しかし、障害があるがゆえに何らかの支援が必要な人には、その支援を行わなければ地域での生活は困難である。また、現状の障害者制度の枠組みの中ではできることできないことがある。柔軟且つ包括的に地域生活を支えていくための仕組みづくりが地域生活サポート事業の目的である。

2022年3月末時点の地域生活サポート事業の契約者は66名である。単身生活・2人暮らし・3人暮らし・4～6人での共同生活等、単位はさまざまである。また、必要な時にのみサポートする人もあれば、定期的にヘルパーを派遣し、生活全体の支援を行っているなど支援の方法は個々に応じて様々である。

2021年度は医療的ケアの必要な重症心身障害者の住居として座-kura-を立ち上げた。入院した利用者もいるが、全体的には大きな混乱もなく落ち着いた生活ができている。

今後の課題として利用者の高齢化が進む中で地域生活が維持できるよう、環境面の整備や仕組み作りを考えて行かなければならない。

下宿屋の防災訓練について、実施したのはスタッフが常駐する下宿屋のみで、常駐しない下宿屋の訓練は実施できなかった。スタッフ体制の問題があるので、全体訓練の中で行うようにしていく。

## 1.各種件数一覧

分 類		件数	割合
ヒヤリハット	ケガ・転倒・転落	73	59%
	行方不明	16	13%
	交通事故	9	7%
	誤飲・誤食・誤嚥	8	6%
	服薬ミス	5	4%
	体調不良	5	4%
	紛失	3	2%
	感染拡大	2	2%
	その他	3	2%
合 計		124	-

分 類		件数	割合
事故	ケガ・転倒・転落	16	27%
	服薬ミス	12	20%
	器物破損	8	13%
	行方不明	5	8%
	紛失	4	7%
	対人関係	2	3%
	誤飲・誤食・誤嚥	1	2%
	その他	7	12%
車両事故(器物破損3件)		5	8%
合 計		60	-

## 2.総括

2021年9月から、ヒヤリ・ハット報告の提出を一定義務付けた。7か月間で124件のヒヤリハット報告が提出された。内訳は上の資料の通りである。ケガ・転倒・転落が59%を占めており、事業所内における発生頻度が最も高い。生活介護事業所では食事介助時における誤嚥や誤食・誤飲が報告された。スタッフが気付いていない可能性を鑑みると、注意が必要なポイントである。

また、ヒヤリ・ハット報告の内容を分析する機関として内部委員会を結成した。報告内容と発生場所の傾向や頻度のほか、なぜヒヤリハット報告が提出されにくいのか等を分析し、次年度にその結果を報告することを決定した。

年間を通して、60件の事故が報告された。内訳は上の資料の通りである。昨年度に比べて、車両事故は14件から5件に減少した。服薬ミスは10件から12件に増加している。9月以降、事故報告件数は41件であり、ヒヤリハット報告を義務付けてからは割合としては増加している。事故に対する意識の向上が増加の要因と思われる。

### 3.ヒヤリ・ハット報告の分類と具体的な内容

発生日	事業所／予想される被害		内容
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	座座	転倒。ケガ。作業置き場にコンテナが乱雑に置かれていて利用者が足をひっかけそうになった。
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	座座	体調不良。不適切なこだわり。食中毒。感染症。みんなが食べ終わった弁当箱を開けて残りを食べようとした。
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	今福事業所	ぶつかった際に転倒しけがをする。作業中に突発的に椅子から立ち上がり、利用者・スタッフにぶつかりそうになる場面があった。
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	座座	飛び出し。事故。畑の際、お昼ごはんを買いに行った。他の車からおばあさんと犬がおりてきて利用者が走って逃げて走った
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	伝	行方不明。事故 負ぶってフロアに入った後、入り口をそのままにしており、その隙にフロアから出て二階の階段まで降りていた。
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	今福事業所	転倒して怪我をする。朝から雨が降っており、玄関が濡れていた。スタッフが玄関はモップがけをして滑り止め対策をしていたが、玄関横のトラックを停めている場所のモップ掛けをしていなかった為、その場所から玄関に入る大塚さんが足を滑らせていた。転倒はなかったが危ない場面であった。
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	つむぎ館	転倒。ケガ。全盲の利用者が急に振り返って戻ろうとして他利用者とはぶつかりそうになった。
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	Kawasemi	ケガ 自分の昼食を持ち勝手口から出る際、片手に持ち変えることがなかなかできずお盆を傾けてしまう場面があった。
2021/9/3	ヒヤリ・ハット	庵	ケガ 送迎待ちの利用者がベッドで横になっている際、近くの台に置いてある他利用者の備品(プラスチックのケース、パルミコートの入っている箱)を手に取り振り回していた。
2021/8/25	ヒヤリ・ハット	いま福の家	転倒、ケガ。ベッドに横になっていた利用者が、スタッフ誰も気付かないうちにふらっと起きてフロアへ一人で歩いて来てフロアで気づいた。(いつもは手引き)
2021/9/1	ヒヤリ・ハット	いま福の家	車と接触。ケガ。車庫入れ中に利用者のマスクが風で飛んでいく。本人駐車場付近に取りにいったので、スタッフ声掛けてスタッフの方でマスク回収する。
2021/9/2	ヒヤリ・ハット	Lianの杜	ケガ Lianの杜の今里筋側の扉を換気のため開けている。トイレ横の扉を開けている時に、外から風が吹くと扉が凄いい勢いで閉まる。扉付近に手を置いていたら大怪我に繋がる危ない場面があった。
2021/9/6	ヒヤリ・ハット	げんげん	ケガ。終礼が終わりスタッフが離れると一人で外に出てこけそうになっている。外にスタッフがいたので転倒せずに済んだ。
2021/9/6	ヒヤリ・ハット	今福事業所	紛失する恐れがある。取引先とのトラブル 取引先より頂いている作業代金が数ヶ月間金庫内奥に収められたままになっていた。
2021/9/7	ヒヤリ・ハット	伝	怪我、骨折 コロナ消毒掃除の際、雑巾がけの為床に酸性水の入ったスプレーをして床一面濡らす。濡れた床と気づかず走り転倒するが転倒した際に上手く受け身をとって打ち身している様子はなかった。打ちどころが悪ければ骨折していた。
2021/9/7	ヒヤリ・ハット	つむぎ館	事故・鍵等の紛失 引き取って来た部品を車両(ラクティス)からつむぎ館へ搬入する際、車両がアイドリング状態であった。スタッフは搬入に向っており、車両付近には2名の利用者がいた。

発生日	事業所／予想される被害		内容	
2021/9/7	ヒヤリ・ハット	今福事業所	怪我、状況によっては骨折	納品する金属部品の箱をトラックに積み込む際、パケツリレー方式で積み込んでいたが、トラックの荷台に積み込む際、手渡すタイミングがずれて荷台で積み込んでいた利用者の足元に重量物の荷物が落ちた。
2021/9/6	ヒヤリ・ハット	庵	怪我、場合によっては火傷	利用者がベッドから起き、自分の席へ移動する際に動線上にあったテーブルの認識が出来なかったのか他利用者の白湯の入ったボトルを落とす場面があった。白湯に限らずテーブル上の物を探そうとしてティッシュ等を落とす事も増えている。
2021/9/4	ヒヤリ・ハット	いま福の家	行方不明、転倒、怪我、事故。	(気付かないうちに)利用者がスリッパで一人で外に出ていた。本人曰く散歩に行くと言っていた。
2021/9/4	ヒヤリ・ハット	いま福の家	誤飲、窒息。	皆でゲームしている時に利用者がおはじきを口に入れた。すぐに声掛けして出して貰う。
2021/9/9	ヒヤリ・ハット	今福事業所	大怪我、事故。	草刈り作業中、現場の壁面に釘が飛び出ており転倒しないよう、注意喚起を促していたが壁付近で作業していた利用者がバランスを崩し転倒する。しかし釘には当たらずケガには至らなかった。
2021/9/10	ヒヤリ・ハット	Kawasemi	ケガ	茶碗、みそ汁椀を8こほど手で積んで運ぶ。忙しいタイミングであったため、他の人に当たる可能性またはバランスを崩し落としてしまうことが考えられた。
2021/9/13	ヒヤリ・ハット	想	誤飲。	「こんなん要らんわ」とリビングに左膝怪我の際に処方された「とんぷく」アセトアミノフェン錠2錠を持って来た。げんげんに服薬確認をすると3錠服薬したとの事だったので残数は合っていたが自身で服薬してしまう可能性あり。 ・頓服薬5錠処方され痛みが強い際服薬。想では服薬なし。 ・傷に当てているガーゼを本人が外してしまう為、別途購入し左ひざのけがセットとしてスーパーの袋に入れてげんげん・想とで本人と一緒に動かしていた。 ・抜糸も終わり傷口も薄くではあるが閉じた為、自室に袋ごとおいていた。
2021/9/13	ヒヤリ・ハット	本部前	大怪我、事故。	運動会の利用者実行委員会が終わり、利用者が本部の前にある切り株に腰掛け車を待っていたが切り株の安定が悪くこけそうになっていた。
2021/9/10	ヒヤリ・ハット	いま福の家	転倒、骨折、大怪我。	避難訓練時避難して玄関で段が2段あり、足取りヨロヨロでそこで前のめりになり前に倒れそうになった。横にスタッフはついてた。前について手引きで避難。
2021/9/10	ヒヤリ・ハット	座座	行方不明。怪我。事故。	ロッカーの中にある靴を取り出して、座座の裏を覗き混んで1人で外に出ようとしていた。。座座のスタッフが本人と目を合わすとあきらめて座座の中に戻っていった。(GPS不携帯)
2021/9/13	ヒヤリ・ハット	庵	転倒、怪我、骨折	椅子に座る際、自分で椅子のひじ掛けを押し過ぎてようで椅子を下げて過ぎてしまった。その為、椅子に座れずにゆっくりと尻もちをつく形になった。本人痛がる様子もなかったが、何が起きたか分かっておらず、集まってきたスタッフに「なんやねん！」と怒っていた。すぐに怒りは収まり、以降はいつも通り。その後何度か聞いても痛みの訴えはなかった。

発生日	事業所／予想される被害		内容
2021/9/14	ヒヤリ・ハット	今福事業所	怪我、行方不明、事故 9/14(火)は実習に行っている3名に関しては休みと聞いており今福事業所に来よう伝えたが連絡を受けたが事業所に来ない為、家に架電する。母に聞き取りをすると渡辺さんは「いつも行く時間に出発しており戻って来ていないし、GPSでも三協精器に8:16に到着した事になっている」と報告を受ける。母からの情報を踏まえ、に架電すると総務部部長が対応してくれ、本人がいるか確認すると「雨の中来てくれたので作業してもらっています。本人には休みだと伝えていたのでおかしいなあとは思っていたのですが」とのことであった。手塚から今後は口頭指示ではなく何月何日は休みなので今福事業所に行くなど大事な情報に関しては紙媒体で本人に伝えてもらう様に依頼し了解を得る。母に再度架電し本人が働いていたことを伝え、電話を終える
2021/9/15	ヒヤリ・ハット	伝	行方不明、転倒、怪我、事故。 スタッフを呼びに屋上に行った際に扉の鍵の閉め忘れがあり、利用者が飛び出した。飛び出した瞬間を他スタッフが見ていたので追いかけて2～3階の階段踊り場で追いつき一緒にフロアに戻った。
2021/9/13	ヒヤリ・ハット	添	不法侵入、窃盗、個人情報の漏洩 宿直明けで、添を出る時に施錠するのを忘れた。
2121/9/15	ヒヤリ・ハット	添	転倒、怪我。 湯船から出てもらう時、足がしっかり上がらずに、湯船を踏けなかった。手摺りを持ってもらって再度やろうとしたが、手擦りが無かった。
2021/9/17	ヒヤリ・ハット	創奏	行方不明 添泊まりの利用者が、一人で杜のこうさてん付近で立っている所をスタッフに保護される(8時15分ごろ)。創奏に送ってもらう。添宿直に確認すると「8:15頃に本人が出て行ってしまい、連絡のために創奏の固定電話に架電をしたが誰もでなかった」とのことだった。
2021/9/17	ヒヤリ・ハット	いま福の家	転倒、ケガ。 トイレに行こうとソファから立ち上がる。その際ソファ背もたれ部分にたまたま布が掛かっておりそこに手をかけたので布で手が滑ってこけかけた。
2021/9/17	ヒヤリ・ハット	いま福の家	交通事故 送迎後、就労キャラバンの左後輪にネジが刺さっているのを発見する。スタンドで見てもネジが短く幸いパンクはしていなかった。
2021/9/18	ヒヤリ・ハット	伝	エレベーター事故。行方不明。事故。 スタッフの許可で利用児童2名で2階にピンを見に行った。しかし1名は散歩に行くど勘違いしピンを連れて1階へ降りていた。他1名が3階伝フロアまでそのことを言いに来たことで発覚。スタッフが対応し戻ってもらった。
2021/9/18	ヒヤリ・ハット	伝	転倒事故。怪我。 伝入り口の上におもちゃを飾っていたが、利用者がこたつテーブル→長テーブルと乗り継いでおもちゃを取っていた。スタッフが対応しテーブルから降りてもらった。
2021/9/18	ヒヤリ・ハット	伝	行方不明。転倒。怪我。事故。 利用者に入り口の鍵を開けてもらいドアを開けると同時に他利用者が後ろから走ってきてそのままフロアから飛び出した。階段を下りる前にスタッフが追いついてフロアに戻ってもらった。
2021/9/19	ヒヤリ・ハット	座	体調不良。水分不足。脱水。 到着時に母より「今日は時間がなく午後の水分補給が出来ていないので、入浴後エネーボ注入の前に水分の注入を挟んでほしい」との申し送りがあったが、申し送りを聞いたスタッフがそのまま別の業務に入ってしまう注入担当のスタッフに引き継いでいなかった。いつもどおりエネーボを注入しかけたところで申し送りを聞いたスタッフが気づき、申し送り内容を伝えて水分補給に切り替えた。
2021/9/18	ヒヤリ・ハット	いま福の家	スイッチの破損～転倒。怪我。 トイレの便座に着座時にウォシュレットのスイッチを支えに座ろうとしたので手すりに誘導した

発生日	事業所／予想される被害		内容
2021/9/20	ヒヤリ・ハット	座座	行方不明、転倒、怪我、事故。 送迎車が到着し運転手が同乗の利用者をつむぎ館まで送っているタイミングで他利用者が事業所内にまだいてなかった(ロッカー前でウロウロしている)すぐにいないことに気づきスタッフが外にいる利用者に声をかけ事業所内に入る。
2021/9/20	ヒヤリ・ハット	今福事業所	転倒、怪我 3階フロアで浮き上がっているコンセントに躓いた。
2021/9/21	ヒヤリ・ハット	つむぎ館	転倒による怪我、周囲への二次的被害、虐待 利用者が到着時より不穏な状態が続いていた。作業時に松本がチェックしている部品を取ろうとした為、止めるとスタッフを引っ張りそのままPCデスク前まで行った。利用者がそのままスタッフを引っ張って行こうとするため、席へ促すが、腕を掴んでバランスを崩し寝転んだ状態になった。スタッフは利用者に覆い被さるような形になった。本人も起こすが、大声が続くため、こちらも大きめの声で席に着くことを促した。
2021/9/22	ヒヤリ・ハット	つむぎ館	服薬ミス 朝食後薬服薬時に、酸化マグネシウム1錠を衣類の間に落としていた。
2021/9/22	ヒヤリ・ハット	庵	怪我 空のペットボトルを振り回して遊んでいた。その際に手が滑ったのか手放して投げってしまう場面があり、近くにいる利用者に当たりそうになっていた。
2021/9/22	ヒヤリ・ハット	いま福の家	転倒による怪我、交通事故 送迎車が到着後、雨が降っていたところ三浦さんが玄関からスタッフの傘を振り切って車両に走って行こうとする。歩道前に止まってもらい大事には至らなかった
2021/9/24	ヒヤリ・ハット	創奏	転倒、踏み外し等による怪我 朝の送迎時に利用者が転倒し、膝を打ったとの申し送りあり。現況確認のために階下に向かうと、階段を上ってこようとする本人を発見した。打撲箇所の状況確認・処置は既にスタッフが行っていたが、大事をとって本人には一階にいるように声をかけた。
2021/9/23	ヒヤリ・ハット	庵	誤嚥 屋食の準備を担当していたスタッフが利用者の味噌汁にとろみをつけるのを忘れていた。食事介助のスタッフが食べていただく前に気付いたので、とろみをつけて食べて頂いた。
2021/9/24	ヒヤリ・ハット	庵	誤嚥、窒息 屋食に白玉団子が入っていたのでのどに詰まるのを防ぐため細かく切って提供した。しかし細かく切ったにもかかわらず粘りが強かったのか井境さんに食べて頂いたとき喉に詰めてむせていた。直ぐに喉から出たので今回は問題なかった。
2021/9/25	ヒヤリ・ハット	伝	転倒、怪我 公園で鬼ごっこをした際、スタッフが利用者が乗る車イスを全力で押して走行していた。すぐにスタッフへ声をかける。子どもたちと全力で遊ぶことは大事であるが、方法と限度を考えるよう伝えた。
2021/9/27	ヒヤリ・ハット	伝	転倒、怪我 脚立に乗って左の足をシンクに入れて洗っている。足を洗った後、右足は脚立、左足はシンクに入れたままマッサージをしようとしてバランスを崩していた。足を拭いて脚立を降りてからマッサージをする方が良いことを伝えた。
2021/9/29	ヒヤリ・ハット	創奏	転倒、怪我 朝礼後、一階の利用者・スタッフが商店街の清掃に出ているタイミングで利用者が到着。スタッフの見守り無く一人で階段を上っていた。偶然気が付いたスタッフが途中から見守り行き、上階へ誘導した。
2019/9/29	ヒヤリ・ハット	座座	事故、交通違反 Wキャブで、利用者同乗で三基鋼業へ納品・引き取りに行った際に、左後ろのブレーキランプが付いていないことを三基鋼業より指摘があり、すぐに車両責任者に連絡→ガソリンスタンドで交換をした。



発生日	事業所／予想される被害		内容
2021/10/1	ヒヤリ・ハット	笑	怪我、転倒、行方不明。 宿直時スタッフ掃除等用事している時、気付かないうちに塩本さんが一人で玄関を出てエレベーターボタン触って階段方面に向かおうとしていた。
2021/10/6	ヒヤリ・ハット	縁	行方不明 8時頃スタッフが利用者対応でリビングを離れている間に他利用者が何も言わず庵に出発。8時10分を過ぎてもリビングに来ないので庵まで見に行くと既に庵で待っていた。
2021/9/29	ヒヤリ・ハット	げんげん	誤食 利用者にタバコを渡した後、他利用者が持っていたタバコをとって、口にいれかけた。近くにいたスタッフが制止する。
2021/10/7	ヒヤリ・ハット	いま福の家	事故、怪我。 送迎車両が完全に停車していないにもかかわらず、助手席の朝川さんが窓を開け「おはようございます」と挨拶。玄関で待機中の利用者が迎えが来たと思い前に進み始め車両脇に高木さんの体が軽くあたる。怪我はなし。その時点で停車はしている。
2021/10/7	ヒヤリ・ハット	庵	怪我 洗濯物を干すのを手伝ってくれていた際、物干しパラソルを運ぼうとしてくれたが、バランスが取れず物干しパラソルが横倒しになりかけ、近くにいた利用者の車椅子に当たりそうになっていた。
2021/10/13	ヒヤリ・ハット	庵	怪我 テーブルに置いていたトレイに敷いていたタオルを玩具にしようと引っ張り、プラスチック製のトレイを下に落としてしまった。当たった人等はおらず、本人をテーブルから遠ざけた。
2021/10/23	ヒヤリ・ハット	城東小学校	行方不明。怪我。 運動会の時、白組の利用者が、一人黄組のテント裏を通り過ぎどこかに行こうとしていたので白組スタッフに声掛け。白組スタッフに迎えにきて貰う。
2021/10/26	ヒヤリ・ハット	げんげん	行方不明。怪我。 玄関を開けて外に出そうになっている。
2021/10/23	ヒヤリ・ハット	想	体調不良。てんかん発作誘発、怪我 利用者が兄宅に帰省予定で一緒に荷物を作る。手帳、小遣い等確認し用意したが夕朝の服薬を荷物に詰めておらず想の服薬ポーチに準備していた。宿直スタッフに帰省の引き継ぎをお願いしていた所、小遣い、手帳が入った封筒に服薬がなく、ポーチに入っていたので兄に渡したとの事で事なきを得た。
2021/10/27	ヒヤリ・ハット	Lianの杜	火傷 スフレケーキをオープンに入れるため、お湯をはった鉄板を持って他利用者の後ろを通ろうとした。その瞬間、フラフラと利用者が通ろうとしている前に出てきた。もう少しで当たりそうになっていた。気がつくのが遅れていたら火傷をしていた可能性があった。次からは吉満さんの後ろを通らず、遠回りをしてオープンのところまで行く様に伝えた。
2021/10/27	ヒヤリ・ハット	伝	転倒、怪我、事故 回転いすに乗って遊んでいた時に後から利用者が近づいて下ろそうと髪の毛を掴み後ろ側に引っ張った。背もたれの隙間に両足を入れていたため、とっさに体勢を変える事が出来ずそのまま椅子が少し傾いた。転倒には至らなかった。
2021/10/28	ヒヤリ・ハット	伝	ネグレクト 個別ルームで2名が活動している途中で失禁あり。スタッフが15:00のおやつ前にトイレ誘導を忘れていたことが原因だった。
2021/11/1	ヒヤリ・ハット	庵	転倒、怪我、事故 出入口付近に車椅子用の体重計を出していたが、利用者が移動時に気付かずに躓きこけそうになった。スタッフがたまたま斜め前にいた為、こちらから支えたり利用者自身も咄嗟にスタッフに掴まりこけずに済んだ。

発生日	事業所／予想される被害			内容
2021/11/1	ヒヤリ・ハット	kawasemi	怪我、火傷	利用者が洗った片手鍋を直す際に積んである鍋を片手で持ち上げようとするときに手が震えている。落下の可能性が考えられるため、ひとつひとつ降ろしてから直すように伝える。
2021/11/2	ヒヤリ・ハット	庵	交通事故	助手席に座っていた利用者が、車が信号で止まろうとした際に庵に着いたと勘違いしたのかシートベルトを外し、ドアのロックを解除し外に出ようとしたとの事。運転手と助手席の後ろに座っていた同乗スタッフが止めた。次回以降送迎時の座る位置を助手席以外で調整し、開閉ドアの横に座らないようにする。
2021/11/1	ヒヤリ・ハット	つむぎ館	作業取引の停止、利用者工賃への影響	作業の見本品目のバーコードシールが間違っていた。必ずスタッフが見本を作っているため、シールが確認できていなかったと思われる。最終的に、見本の部品も梱包・納品するため商品となる。そのまま納品されるとクレームに繋がる。(過去にクレームあり)納品前であったため、全体に声かけ、作業を止めて部品を再検品し、他に間違いが無かったことを確認した。
2021/10/30	ヒヤリ・ハット	いま福の家	誤食	刻み食の中に、ビニール手袋(青)の破片が一辺混入。食事を刻んでいる時に手袋と一緒に刻んでしまった。穴のあいた手袋の跡と破片を見比べて取り除き他に混ざっていないのを確認。破片まわりと共に取り除く。次回以降手袋をぴったり指にはめ、隙間が出来ないようにする。
2021/11/6	ヒヤリ・ハット	いま福の家	火傷	朝のコーヒーをカップにスタッフと一緒に注いでいたが、カップの位置がずれて利用者の手にコーヒーが少しかかった。コーヒーが少量で高温でなく直ぐ冷やしたので赤くもならず。
2021/11/10	ヒヤリ・ハット	伝	怪我・打撲・骨折	椅子の背もたれ側を自分の正面にして椅子をガタガタさせて遊んでいたところ、勢いあまって正面に(背もたれから)倒れた。背もたれが本人の下敷きになったので本人に怪我はなかったが、あと少し位置がずれていた他利用者のテーブルで顔面を打つ、また、他利用者が巻き込まれる危険性もあった。
2021/11/2	ヒヤリ・ハット	創奏	転倒・他害・怪我	ショート明けでが来所。前日に大荒れしていたが夜は大人しかったとの申し送りあり、到着時も落ち着いていたが、階段を上っている最中に、上階で他利用者が大声をあげているのを聞き、声を上げて荒れだしている。同行していたスタッフが抱きとめる形でなだめると、とりあえず二階に上がってから荷物を置いて泣き出していた。
2021/11/16	ヒヤリ・ハット	庵	服薬ミス	昼食が終わった後に服薬チェック表を確認すると、チェックが入っていなかった為、薬を入れるウォールポケットを確認すると薬が残っていた。食事介助者に伝え15分程遅れて服薬をしてもらう。利用休止が長かった事も有り、抜けが出やすいので再度服薬の周知を行った。
2021/11/23	ヒヤリ・ハット	伝	怪我・骨折	こたつテーブルを朝から端に立てかけたままの状態、そこに椅子を持って来てこたつテーブルの脚の方を足で動かし天板が傾いていた。すぐに本人をその場から離し、こたつテーブルを寝かせて配置した。児童が来る時間は基本立てかけて置いておくことの無いように周知を行った。
2021/11/24	ヒヤリ・ハット	伝	怪我	15:30頃に個室スペースで課題を行っていた際にハサミとストローを使用した。そのハサミを個室スペースに置きっぱなしにしていたため、利用者1人で個室スペースに入った際にハサミとストローを見つけ一人で切っていた。スタッフがその様子を発見しハサミを預かった。

発生日	事業所／予想される被害			内容
2021/11/24	ヒヤリ・ハット	伝	怪我	鏡を洗面台から持ち出して壁に立てかける。鏡に映る自分の姿を見て遊んでいたが、スタッフが一旦その場から離れたことで立てかけていた鏡が前に倒れた。幸いにも怪我はなかった。
2021/11/26	ヒヤリ・ハット	伝	転倒、打ち身	本人の上着をテーブルなどにかけて遊んでおり上着かけの所に行きかけに行き際、ハンガーに掛けていた本人の上着の袖を本人が踏んでしまい滑って転倒。床におでこをぶつけ少し赤くなっていた。すぐにアイシングをして様子を見るも痛がる様子もなく赤みもすぐに引いていた。
2021/11/22	ヒヤリ・ハット	いま福の家	転倒、怪我	朝の掃除時間にゴミに集中していたため段差に気づかずにつまずく、バランスが取れたため大事には至らなかった。
2021/11/29	ヒヤリ・ハット	いま福の家	転倒	トイレに入って寝てしまっていた。狭いトイレの中だったので壁にもたれる状態だったので転倒にはつながらなかった。
2021/12/1	ヒヤリ・ハット	希	怪我	食事をハサミできざんだ際、そのままハサミがテーブルに出っぱなしとなっていた。利用者がリビングへ来た際に発見し、ハサミをすぐに下げた。運よくハサミに触れることなく事なきを得ている。
2021/12/2	ヒヤリ・ハット	庵	服薬ミス	連絡帳記入の際に、今日の薬が残っている。食事介助者が昼食後の服薬(ビオフェルミン)を忘れていた。食後1時間程空いてしまったが服薬してもらおう。
2021/12/6	ヒヤリ・ハット	宙	転倒、怪我	朝食の食器を拭いてなおしていた際に食器棚のドアが開いたままになっていた。そこを全盲の利用者が通ろうとする。すぐに気が付き食器棚の戸を閉めたため大事には至らなかった。
2021/12/7	ヒヤリ・ハット	座座	紛失、盗難	座座到着後に、各々ロッカーに靴、衣類、カバンを直し、貴重品、ノートをスタッフに預けるのだが、下駄箱上に利用者の貴重品(お金や手帳等が入ったファイル)やカバンがそのまま置かれていて、荒川理事長がすぐに気づいて座座に届けてくれ、大事に至らなかった。
2021/12/7	ヒヤリ・ハット	つむぎ館	怪我	作業時に、イスの下にプラスチックの鋭利な破片があり。作業用のカゴを確認するが、欠けている部分と破片が合わず。どこから出た破片か分からず。触れてはなかったが本人にも伝えた。
2021/12/7	ヒヤリ・ハット	げんげん	怪我	送りのリフト乗車時、利用者の手を握っていたが、暴れたことで手が離れた。その際左手をバックドアのパッキンに手をかけ、運転手がドアを閉め指を詰めそうになった。
2021/12/8	ヒヤリ・ハット	庵	転倒、怪我	庵に来所後しばらくしてベッドで横になる。その時ベッドの高さ調整(低くしようとしていた)をした時に椅子を挟む。本人から「ベッドが斜めになっている」という訴えでスタッフが気づきベッドの高さを元に戻して椅子を取り外す。ベッドの傾斜が20度ぐらいになっていてそのまま高さを下げれば怪我をする危険があった。今後ベッド周辺を気を付け、特に終了後は椅子等を元あった場所へ戻すよう徹底していく。
2021/12/8	ヒヤリ・ハット	Lianの杜	怪我	Lianの杜1階の階段横の通路部分に古い釘が出ていた。少し上方向に折れ曲がっている状態だったが、そばにコンセントもあり、何かした拍子にケガをする恐れがあるので抜いた。

発生日	事業所／予想される被害			内容
2021/12/9	ヒヤリ・ハット	交差点	交通事故	スクランブル交差点で、信号が赤であるにもかかわらずそのまま歩いて行こうとした。すぐに止めたため大事には至らず。下を向いて歩いているため、前を向いて歩くように声かけするが、しばらくするとまた下を向いて歩いていた。歩き方によって注意が必要。
2021/12/8	ヒヤリ・ハット	今福	交通事故、道路交通法違反	配食回収の際に「今福事業所のトラックをみかけたが右後輪がパンクしているのでは？」と来電。運転手に架電し状況確認すると鋭利な金具を踏みつけパンクしていたとのことで本部前でタイヤの着脱交換してもらった。
2021/12/9	ヒヤリ・ハット	今福	転倒、怪我	事業所内トイレ3階の電気スイッチの接触が悪く電気が着いてもすぐに消えてしまう為スイッチを交換した。
2021/12/10	ヒヤリ・ハット	伝	誤飲、窒息	ダンスが終わって児童が帰る準備に忙しくしている中、回転いすに座っている利用者が何かを口に入れてガムのように噛んでいるのをスタッフが発見。「何を食べてるの？」と声をかけると本人が異物を口から吐き出した。(異物の正体は不明。紙の塊のようなもの)スタッフが本人を洗面所に誘導しうがいをしてもらった。
2021/12/14	ヒヤリ・ハット	庵	転倒、怪我	庵到着後手を洗い電解水のバケツを動かすも床を水で濡らしてしまう。その後ハンガーをスタッフから貰いジャンパーをハンガーにかけようと濡れた床を避け後ろへ1歩下がったところバランスを崩し転倒。横にあったクリスマスツリーにもたれかかるようにして倒れた。ゆっくり倒れたので怪我は無かった。前日クリスマスツリーを飾ったが、それが電解水を置いている場所とハンガー付近を狭くしていた。クリスマスツリーを含めハンガー付近を広くし動きやすくした。
2021/12/18	ヒヤリ・ハット	伝	怪我	お楽しみ会でプレゼントを配っている中、1人でビーズクッションに乗っていたが後ろ向きに落ちるように落ちて尻もちをついた後に床で後頭部を打つ。打ち付けた後に泣いていた。すぐに泣き止みその後の様子も腫れ等もなく変わりなし。
2021/12/14	ヒヤリ・ハット	庵	風邪、体調不良、体調悪化	終礼後帰る用意をする際に利用者(言葉のない方、体温調整難しい、自分では更衣難しい)の上着を着てもらおうのを忘れたまま家に帰ってしまった。翌朝、母から連絡がありその時に気づき、謝罪をする。忘れてしまった原因としては送り出し前後、スタッフ数名掃除やその他業務を行っており、送り出しの際の服装のチェックが甘くなっていた。さらにいつも上着を掛けているハンガーから本人の上着が床に落ちてしまっていた。
2021/12/24	ヒヤリ・ハット	伝	行方不明。怪我。	利用者トイレに誘導するも、フロア内のトイレは他児童が使っており、3階踊り場のトイレを使用する。本人がトイレに入った状態でスタッフが一旦トイレから出てフロアに戻ったが、トイレ内の利用者がいつの間にかエレベーターに乗っていた。
2021/12/27	ヒヤリ・ハット	今福	ケガ。	1階でスタッフがリフトを動かす際、声掛けし側にいた利用者から離れてもらう。その後、安全確認をしてリフト爪を伸ばしていたが利用者がリフトから後ろに下がろうとしたさいにリフトに気をとられたのか転倒し尻餅をついた。
2021/12/30	ヒヤリ・ハット	庵	怪我、転倒	フロアでスタッフ松本が利用者対応の為移動中、利用者の足に引っかかりこけそうになる。足に怪我をさせる可能性があったほか、自身が転倒して自分自身や他の利用者・スタッフの怪我に繋がる可能性があった。今回は予想以上に伸びていた為足に気付かなかったのだが、そもそも急いで移動していたので足に気付かなかったことが原因であり、急ぐ作業があっても落ち着いて行動するよう、狭い場所を移動する時は細心の注意を払うよう気を付ける。

発生日	事業所／予想される被害		内容
2022/1/11	ヒヤリ・ハット	道路上	交通事故、怪我 ゴミを拾っている時に自転車が通り過ぎるところで塵取りだけが自転車に当たったが、特に何事もなかったが、危うくぶつかってしまう所だった。動くときには見てから動くように伝えていく。さらに声掛けしていく。
2022/1/12	ヒヤリ・ハット	Shokudo	怪我 お鍋をなおすため声掛けなしに調理している利用者の足元になおそうとした。やけどや事故の恐れがあるので、声をかけ大きな声で「お鍋をなおします」と伝えるように指示。
2022/1/10	ヒヤリ・ハット	創奏	やけど 熱湯持ったまま固まる
2022/1/12	ヒヤリ・ハット	創奏	怪我 毛布置くのに納得できず他害
2022/1/12	ヒヤリ・ハット	伝	怪我 おやつ後椅子を揺らして遊ぶ。椅子に座り自身の体重を乗せて前後に揺れたタイミングでバランスを崩して転倒。受け身をとって床に臀部を軽く打つ程度で済んでいる。床に落ちた後は泣いていた。竹内がそばでみていたことから頭部を打った様子はなし。
2022/1/13	ヒヤリ・ハット	いま福の家	転倒。頭部打撲。怪我。 昼食前スタッフがベッドからリビング椅子まで誘導中。本人椅子に手をかけ座りかけた際にバランスを崩し本人左側より崩れ倒れ掛かる。丁度椅子の後ろに椅子を引いたスタッフがいたので本人を抱える事が出来た。左半身(下半身)はゆっくり床につき軽く当たったが頭は手で抱えられたので頭部は打たなかった。今日は1日特に左側の手や足の動きが特に鈍く手引きの際に体重がいつもよりかかる事多かった。ここ数日は日によってばらつきあり。血圧は日中何回か測るが1日正常。
2022/1/15	ヒヤリ・ハット	伝	感染拡大の恐れ スタッフに対して「月曜学校休みやねん」と発言があった。理由を確認すると「コロナで」とのこと。その日の終礼時(児童を送り出した後)に報告があり小学校にてコロナ陽性者が発生したことが発覚。送迎時に母に確認すると本日は自宅待機期間であったことが判明。母から前もってその報告は無かった。
2022/1/16	ヒヤリ・ハット	ひなた	服薬ミス。血糖値の上昇 朝食後に服薬する糖尿薬(ジャヌビス)1錠が足りなかった。結果、血糖値測定の針箱に入っていたのを本人が見つけて大事に至らなかった。
2022/1/17	ヒヤリ・ハット	ひなた	火事・火傷等の怪我 朝に台所の壁側(金庫上)のコンセントが焼け焦げた跡を見つけた。以前からと思われ、いつからかは不明。二つ差し込み口があり、上の差込口が焼けており、下の差込口は焼けておらず、延長コードの方が焼けた跡あり。差し替えられていた状態であった。気づいたときにすぐにコードは抜いた。それ以降は、使用しないように張り紙をおこなった。
2022/1/14	ヒヤリ・ハット	自宅	転倒・怪我 帰宅後に外用の車いすから室内用の車いすに移乗する際に、ブレーキをし忘れて持ち上げようと準備をしている段階で少し車いすが動く。すぐに移乗はやめて車いすのブレーキを行った。
2022/1/20	ヒヤリ・ハット	つむぎ館	紛失 昼食後にコーヒーを買いに行った。お釣りを畑中に渡す。お釣りを受け取った後、他の利用者とはぶつかりそうになったため、その対応に入ることでお釣りを北川さんの財布に入れることを忘れていた。15:00に本人がコーヒーを買いに行くということで思い出して戻した。突発的な出来事の対応後、すぐに金庫に戻す様意識する。
2022/1/22	ヒヤリ・ハット	いま福の家	怪我 椅子に座りスタッフが椅子を前に寄せる時、テーブルと椅子の肘置き間に手を挟みそうになった。肘置きとテーブルの間にスペースがあったので何事もなく済むが、スタッフ全員に意識をする様に伝える。

発生日	事業所／予想される被害		内容	
2022/1/25	ヒヤリ・ハット	希	転倒・怪我	居室にて車いすに乗った状態で放置していた。周りにはスタッフが一人もおらず。希朝の送迎時間、庵の送迎者が迎えに来ており、希朝対応のスタッフが外出できる状態で車いすに乗った状態で放置し台所で洗い物をしていた。
2022/1/24	ヒヤリ・ハット	笑	転倒・怪我	朝の送迎時に対向車が来たため、道路の端に避けようとした時に車いすの前輪が下水溝の蓋に引っかかり、前のめりになる。咄嗟に本人の腕を掴み大事には至らなかった。
2022/1/26	ヒヤリ・ハット	伝	怪我・骨折・脳の損傷	昼食前のコロナ掃除の後、トイレに行く時間なのでトイレカードを持ってくるよう指示を出すと、すぐ横にあった専用のトイレカードを取ろうとしたので、カードではなく結ちゃんのカードを持ってきてと言いなから本人の背後に回って体をトイレの方向に向かせようとした際、本人が踏ん張って抵抗しようとしたが足が滑って中村の前身を滑るように本人が倒れた。頭が足の甲の上に乗っかるような状態で倒れたので大事には至らなかったが、背面から倒れたので頭を床に打ち付ける可能性も大いにあった。
2022/1/26	ヒヤリ・ハット	座	体調不良	滴下速度の確認を怠り、全体量の200mlの半量を全開で注入してしまった。その後、本人の様子に異常は見られなかった。
2022/1/27	ヒヤリ・ハット	創奏	行方不明	本来、車送迎のはずの利用者が新喜多大橋のあたりを歩いて通所しているのを、送迎のドライバーが発見する。創奏に報告し、スタッフが様子確認に向かった。
2022/1/26	ヒヤリ・ハット	伝	行方不明	送迎に出る際、出入り口の施錠をスタッフに伝えておらず、入口の施錠が出来ていなかった。
2022/1/27	ヒヤリ・ハット	希	感染拡大の恐れ	検温・SPO2の記載がなかった。本人へ確認すると「測っていませんでした。すみません。」とのこと。今後は出勤した際、一番に検温をするよう伝えた。
2022/2/8	ヒヤリ・ハット	伝	転倒・怪我	来所し緑色のクッションに座り身体を揺らしていた際に緑色のクッションでホワイトボードを固定していたのがズレ、ホワイトボードが転倒した。怪我なし。転倒を防ぐように固定をするように見直しをする。
2022/2/24	ヒヤリ・ハット	shokudo	誤食	青い手袋の切れ端が白菜に入っていた。スタッフが気づいて取り除く。白菜を切った時に入ったものであった。
2022/2/26	ヒヤリ・ハット	伝	転倒・怪我・骨折	昼食の準備中、テーブルの合間から飛び出してきた利用者とは垂直方向に歩いていた中村がぶつかる。よろけてテーブルにぶつかり、それに驚いて泣き出している。抱っこをしてあやすと3分程で切り替わって泣き止んでいる。幸い怪我等は無し。
2022/2/28	ヒヤリ・ハット	いま福の家	服薬ミス	朝食業、朝到着後スタッフと一緒に服薬終わっていたが、床を見ると1錠落としていたので確認、飲んで貰った。きちんと口に入れたのは目視したとの事だがその後口からぼろっと出たのかもしれない。

発生日	事業所／予想される被害			内容
2022/3/12	ヒヤリ・ハット	伝	転倒、怪我、骨折	単独でノアで三男と長男を自宅に送った際、家の前の道路の端にバックで少し歩道に乗り上げて停車していたがドライブからバックに切り替え後ろを確認した際に3列目に乗っていた将翔くんがシートベルトを外して立っていた。自宅に到着しバックする際に停止したためと、兄の将晴くんが前の席に座っており、シートベルトは外してはいないがベルトを伸ばして体を乗り出したりしていたので、外していると思って同じように行動したためかと思われる。
2022/3/18	ヒヤリ・ハット	伝	怪我	おやつ後、歯磨きをするよう声掛けを行う。砂時計と自身の歯磨き姿が見て分かるようB4サイズに小さな鏡を机に置いて磨いてもらった。歯磨きを終えて本人が席を立つ際に歯ブラシの入ったコップが当たった？のか「パリン！！」と音が響き鏡が割れた。幸いにも近くに児童がおらずスタッフのみであった。
2022/3/26	ヒヤリ・ハット	伝	骨折、怪我の恐れ	ポッチャゲームの際、静養室に機嫌が悪く泣いている利用者に対して他利用者が向かっていきクッションに乗っていた。怒った利用者が背中を数回蹴ったとこで今度は逆上して持っていたポッチャのボールを対して投げつけた。幸いにも本人には当たらず、大事に至らなかった。
2022/3/22	ヒヤリ・ハット	いま福の家	交通事故の恐れ	通院の為一緒に乗っていた水谷さんに一緒に降りてくださいとお誘いするが車内で待っていると事だった。ドアロックをかけて見える範囲内でいた所ドアを開けてしまい警報ブザーが鳴ってしまう。本人に確認したところ「痰をはきたかったから」とのこと。(注意は普段からしている)すぐに駆け付けて警報は止めている。
2022/3/30	ヒヤリ・ハット	今福事業所	事故・けがの恐れ	一階通路に自転車が置いてあった。

#### 4.事故報告の分類と具体的な内容及び防止策

発生日	分類／状態／対象／予想される被害				内容	防止策
2021/4/2	事故	事業所	器物破損	利用者→事業所	テレビのリモコンを投げて画面を破損。	
2021/4/4	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	夕食時に翌日の昼食後の薬を手渡し服用させた。	本人と一緒に曜日と服薬時期を確認する
2021/4/5	事故	車両	器物破損	業者→事業所	業者のフォークリフトのアームがトラックの幌のフレーム接触、歪み発生。	荷台の内側に注意喚起の張り紙。
2021/4/7	事故	事業所	行方不明	利用者	ドライバーの動きを見て、納品に行けると思い込み飛び出した。外で動かなくなり、0時間ほど他のスタッフが対応。	入り口付近で作業する際は、スタッフが側にいる。また、奥のスペースへ誘導する
2021/4/13	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	服用を忘れた利用者の薬を別利用者のものと勘違いの上、服用させた。	連絡ミスが重なっており、曖昧な場合は直接発信元に確認する。
2021/4/20	事故	居宅	ケガ	スタッフ→利用者	カニューレの掃除をする際に気管切開部に痰が固着、ピンセットで除去したところ表皮に傷をつけて出血させた。	ピンセットを使用する際は、皮膚の状況を観察する。
2021/4/21	事故	事業所	ケガ	利用者	車内の座席に誘導中、強直発作。倒れこんでこめかみに裂傷。	車内の危険な箇所に座布団等を準備する。
2021/4/21	事故	事業所	誤飲	利用者	事業所の裏口の棚に放置してあったペットボトルのお茶を飲んだ。	出勤時に不審物をチェックする。
2021/5/27	事故	事業所	器物破損	利用者	倉庫のカギをカギ穴に刺したままシャッターを開けてしまい、シャッターのカギ・鍵穴を破損。	利用者にカギを渡さない。

発生日	事業所／予想される被害		内容			
2021/6/3	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	3種の薬を注入することを忘れて昼食を終えた。帰宅時に薬が残っていたことで発覚。	服薬票を作成、注入作業中は他のことに関与しないことで統一。
2021/6/17	事故	事業所	対人関係	利用者→利用者	全盲利用者と接触、イライラが募り近くにいた別の利用者に噛みついた。	双方が全盲であるため、移動の際には細かく声掛け指示。
2021/6/20	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	朝食後に夕食後の薬を手渡しして服用させた。	手渡し際に本人と確認する。
2021/6/24	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	リュックのポケットに準備されていた薬を見つけることができず、服用させなかった。	利用者の情報を確認する。日中活動のみではなくその人の生活に関心を持って理解を深める様に努める。
2021/6/25	事故	事業所	転倒	利用者→利用者	車イスを押してきてくれたが、突然ハンドルを上下に動かして車イスを転倒させた。車イスの利用者にけがはなし。	利用者に車いすを押させない。
2021/6/26	事故	居宅	交通事故	利用者	手引きで移動中、つまづいて転倒。	スタッフが荷物を持つことを提案するが、自分で持つとのことで変更なし。
2021/7/18	事故	居宅	器物破損	スタッフ→利用者	エアコン掃除後、フロントパネルが閉まらなくなり業者対応。ツメの劣化と破損が原因。	依頼を受けた際にリスクを説明する。
2021/8/11	事故	車両	接触	事業所	運転席側ドアに擦り傷。いつどこでできたのか不明。	毎日確認
2021/8/14	事故	車両	交通事故	事業所	マンションの駐車場天井に車両の上部を接触。上方の確認不足。	添乗者が後方を確認する。
2021/8/16	事故	事業所	ケガ	スタッフ→利用者	トイレ介助中、手すりをもって立位。足が脱力ししりもち。かかとに裂傷・出血。	周辺の確認と金具の撤去。
2021/8/19	事故	車両	接触	事業所	後部座席左側ドアの取っ手に傷。いつどこでできたのか不明。	毎日確認
2021/9/9	事故	事業所	転倒	利用者→利用者	フロアで座っていたが、後ろから来たり利用者が転倒、押されて顔面を床に殴打。歯茎・鼻先から出血。	必ずスタッフが側につき対象とするが、困難な場合は明確に指示し可能となる体制を優先する。
2021/9/19	事故	居宅	服薬ミス	スタッフ→利用者	前日の通院を失念し、服用すべき薬が不足。通所先事業所のストックで対応。	通院ごとに通院予定、日々薬の残数を確認する。
2021/9/22	事故	事業所	ケガ	利用者	オープンに鉄板を入れる際に内部に手の甲が接触、やけど。	扉が押し戻されないように、周辺の物品を移動。
2021/9/24	事故	事業所	紛失	スタッフ	本人が使用している引き出しに入れていた身分証を紛失。警察に遺失物届。	毎日着用し、出退勤時に確認する。
2021/10/6	事故	事業所	紛失	スタッフ→利用者	靴下をはくことを拒否した利用者の靴下を本人のズボンのポケットに入れたが、片方のみ車内で確認したがもう片方は不明のまま見つからなかった。	本人のカバンや家族に手渡す。
2021/10/12	事故	事業所	対人関係	利用者→利用者	突き飛ばされた利用者が転倒。	特定の人を敵視する原因の解明と、距離を保つような取り組み、本人からの発信を共有する。



発生日	事業所／予想される被害			内容		
2021/10/14	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	ヘルパーと通院後に通所したものの、服薬忘れ。スタッフ・本人の確認作業がなされていなかった。	本人の居室に、チェック表と薬を張り出し、周囲が確認する。
2021/10/18	事故	事業所	行方不明	利用者	公園から事業所への移動途中、スタッフがそれぞれ利用者の対応中に、利用者0名の所在を見失った。	全体を見る役割を最後尾のスタッフが担う。
2021/10/21	事故	事業所	送迎ミス	スタッフ→利用者	利用者の自宅迎えを失念。謝罪	前日・当日に予定確認。
2021/10/25	事故	車両	器物破損	スタッフ	後進中に左後輪と路上の植木鉢が接触。植木鉢を破損。所有者に謝罪。	車幅と安全確認。
2021/10/26	事故	事業所	行方不明	利用者→利用者	開錠し事業所内に入室したが、施錠せず作業。その間に利用者0名がメロの改札行きエレベーターまで移動していた。	入口カギ施錠と防犯ブザーの徹底。
2021/10/26	事故	事業所	ケガ	利用者	右足小指に腫れ。受診の結果軽いヒビが入っていた。	動きの少ない利用者にはスタッフが側につく。
2021/10/30	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	本人が予定時間に薬を受け取りに来ていたにもかかわらず、別の作業をしていて気づかなかった。	予定時間に本人の来所を気付かない状況を作らない。
2021/11/1	事故	事業所	器物破損	利用者	利用者が不調・物を投げる・暴れる等の結果、下駄箱が破損。	
2021/11/3	事故	事業所	器物破損	事業所	ガスコンロでお湯を沸かしたが、壁に燃焼跡がついた。	コンロ位置の調整。
2021/11/12	事故	事業所	紛失	利用者	家族から預かった書類を、事業所に帰って確認した際に紛失していた。	ポーチからジッパー付きのカバンに変更。書類はカバンに入れる。
2021/11/18	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	昼食時の服薬させなかった。送迎終了後、薬の残数を確認した際に発覚。	昼食後の服薬の要否について曖昧。本人の朝の状態によって異なるため、通所後に服用することで統一。
2021/11/21	ヒヤリ・ハット	事業所	行方不明	利用者	一緒にエレベーターに乗ることを嫌がられたため、本人のみを載せて移動したものの、本人はその先まで移動していた。	本人から離れずに対応する。
2021/11/22	事故	車両	接触	スタッフ	停車から発信の際に左前方をガードレールに接触した。	発進の際に死角の確認。
2021/11/24	事故	事業所	ケガ	利用者	送迎後、顔のケガについて家族から問い合わせあり。学校での出来事と予測されるが、送迎時にスタッフが気付いていなかったことが問題。	身体の状態の確認。発信が弱い児童について周囲必要。
2021/11/24	事故	車両	接触	事業所	駐車時に後方が暗く左に寄せすぎて壁に接触した。	側方感覚、安全確認。
2021/12/1	事故	事業所	器物破損	事業所	ラミネーターを運ぶ際に落下させた。	コンセントの近くまで箱のまま運ぶ。
2021/12/1	事故	事業所	権利侵害	スタッフ→利用者	「静かにできる人」と名札に明記し着用させた。	複数人で相談・決定する。
2021/12/4	事故	移動支援	連絡ミス	スタッフ→利用者	ガイドヘルパー利用予定にもかかわらずヘルパーが来なかった。	予定表・時間・シフト・のチェックと伝達漏れの有無に注意する。謝罪。
2021/12/20	事故	事業所	ケガ	利用者	停車していた車を蹴ろうとして、バランスを崩して転倒した。	車側について歩行する。

発生日	事業所／予想される被害			内容		
2021/12/23	事故	事業所	器物破損	事業所	ガラスにひびが入っていた。	目隠しとして白いビニールを貼り付けており発見が遅れた。
2021/12/28	事故	車両	器物破損	事業所	車止めポールに接触。バンパー破損。	死角に対する安全確認。
2021/12/30	事故	事業所	服薬ミス	スタッフ→利用者	昼食後、服薬させなかった。利用者が帰宅後に発覚。	使用している健康チェックシートに服薬欄を追加し、全員で確認する。
2022/1/2	事故	移動支援	服薬ミス	スタッフ→利用者	昼食後、服薬させなかった。利用者が帰宅途中に発覚しその場で服用した。	メモ・リマインド機能等活用する。
2022/1/4	事故	事業所	連絡ミス	事業所	利用者迎えの時間を対応スタッフに周知されておらず、送り出しに影響・混乱が生じた。	スタッフ全体で状況確認。責任の所在を明確にする。
2022/2/3	事故	事業所	行方不明	スタッフ→利用者	門扉が施錠されておらず、利用者が事業所から単独で外出していた。	門扉の施錠を徹底。
2022/2/14	事故	居宅	ケガ	スタッフ→利用者	耳掃除中に内耳出血。鼓膜敗れ。自然治癒。	感覚鈍麻。本人の気分等状態により程度を調整。
2022/2/15	事故	事業所	器物破損	利用者	来所時からイライラ。シャッター支柱を蹴り破損。	日ごろから、イライラ含めて様子観察。
2022/3/2	事故	事業所	ケガ	利用者	コンテナを出入り口の左端に置き、気づかなかった利用者がつまずき転倒。	導線上に障害物を置かない。
2022/3/11	事故	事業所	転倒	利用者→利用者	ダンス中に利用者の足につまずき、壁に頭部を強打。その後利用者に覆いかぶさったが被害なし。	スタッフの配置、利用者間の距離をとって活動する。
2022/3/13	事故	居宅	紛失	スタッフ	買い物に外出、買い物後残金確認しようとする時財布を紛失していた。城東警察に届けられていた。	上着のポケットに入れて移動していたので、カバンに入れて持ち歩く。
2022/3/15	事故	事業所	ケガ	利用者	感染防止対策のために設置した間仕切りの角に鼻をぶつけて出血した。	角に緩衝材と視覚的に目立つよう養生テープを貼り付けた。
2022/3/16	事故	事業所	ケガ	利用者	iPadで動画を流しながら体操中、前に行く利用者のズボンをつかむと後退した。後退し続けて転倒。スタッフは転倒した場面を確認できなかった。	全体が見える位置を確保し、本人がバランスをとれる状態になるまで目を離さない。
2022/3/18	事故	事業所	転落	スタッフ→利用者	車イスからベッドへ移乗の際に、浅すぎてずり落ちた。ケガ等無し。	身体介護に対する基礎的な技術の向上。
2022/3/20	事故	居宅	転倒	利用者	荷物を持って階段を降りる際に、踏み外して転倒。左頭部に赤み、左ひざに擦り傷・打撲。	階段の上り下りの際は手すりを持ってもらう。目が見えにくいことを前提に住居の変更も考慮する。
2022/3/30	事故	事業所	転倒	利用者→利用者	密着されることを嫌がった利用者が押しのけたため相手利用者が転倒。	感情・行動尾の変化を観察し予測する。利用者へのアプローチとして自分の気持ちの伝え方を練習する。

防災委員会は、法人内事業所から選抜されたスタッフで構成される。防災委員会は、そうその杜として組織的な防災計画の作成と具体的な防災対策の想定、スタッフの防災意識向上を目的とし、それに伴う非常用備品の補充・管理を役割とする。

毎月の防災訓練（地震・水害・火災を想定）を事業所単位で実施した。スタッフ・利用者共が、発災時にスムーズに行動できることを目的とした。また、避難訓練の結果を毎月 1 回の防災会議で分析し、利用者に応じた事業所ごとの課題を洗い出すことで、災害の種別に応じた避難方法・手順・経路を精査した。可能な限り実際の避難に対応した防災マニュアルの作成を心掛けた。

### 1. 防災本部立ち上げについて

寝屋川が城東区を南北に分断しており、橋の崩壊等で南北の往来ができなくなることを想定し、寝屋川を境に本部機能を南北二区画に分けた。南部（嶋野付近）を A 地区とし、しぎの あ・うんの杜を A 地区の防災本部と設定している。北部（蒲生四丁目付近）を B 地区とし、Kawasemi を B 地区の防災本部と設定している。ただ、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により防災本部立ち上げの流れを確認するまでには至らなかった。

### 2. 事業所ごとの防災マニュアルに沿った防災訓練

事業所ごとに防災マニュアルを作成し、一時避難場所の設定、防災本部までの避難経路を確認した。また、移転に伴った各事業所マニュアルの見直し、新規利用者、新人スタッフなど人員が変動するたびにマニュアルの見直しをした。

### 3. 防災グッズの購入と保管場所の検討

しぎの あ・うんの杜に、専用の倉庫として防災グッズ、非常用食料・飲料水を保管している。備蓄倉庫は 4 か所あり、分散して保管している。現在、4 か所の備蓄倉庫に 100 名×2 日分の非常用食料品・飲料水が保管されている。

随時必要な物品、便利なものが出てきた場合は防災委員の会議の中で検討し購入している。（カセットコンロ、軍手、ゴム手袋等）

日常的に使う備品（トイレトペーパー、ハンドペーパー、ゴム手袋）に関しては防災倉庫での管理ではなく本部管理にし常に入れ替えを行っている。

#### 4. 避難訓練実績

年	月日	内 容
2021	4. 9	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
	5. 13	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
	6. 21	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
	7. 27	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
	8. 17	地震、津波を想定。全事業所が津波を想定した避難訓練
	9. 10	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
	10. 11	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
	11. 16	火災訓練（けが人あり）
	12. 10	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
2021	1. 17	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
	2. 15	火災訓練（けが人あり）
	3. 11	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練

#### 5. 避難訓練について

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で大々的な本部を立ち上げての訓練は実施できなかったが、各事業所が思考を凝らして訓練の仕方を考え、第三者的な立場でチェックし、事業所内の安全確保について話し合った。具体的には、避難経路の確認、避難経路中の安全確認、家具の倒壊防止措置の有無、人数に応じたヘルメット数、AED・救急箱の管理について確認している。その際、不足している物などは、迅速に購入し設置した。

新たに座座/座が出来たことにより座座が避難場所になり、座座のスタッフの動きなどを確認し今まで対応するのに時間がかかっていた商店街にある作業所などに素早く対応できるようになった。

法人の全体会議において、各事業所の避難訓練を検証した。全スタッフの防災意識の向上を進めるため、定期的に避難訓練の課題を報告しマニュアル等を更新した。

## 6. 防災会議実施日

年	月日	内 容
2021	4. 28	年度初めの会議今後の話し合いをする（防災会議を月一回、第四水曜日に開催することにする。） 次回の訓練日程決定
	5. 26	5月の防災訓練の振り返り Kawasemiにて新型コロナウイルス感染症対策も含めて会議をする。 次回の訓練日程決定
	6. 23	6月の防災訓練の振り返り 防災グッズ購入品目を確認（間服事業所用に担架を購入）、 次回の訓練日程決定 賞味期限切れ物品検討
	7. 28	7月の防災訓練の振り返り 防災グッズ（降雨対策用土嚢等購入確認） 次回の訓練日程決定
	9. 1	8月の防災訓練の振り返り、 防災グッズ、すいのう君購入し検証 次回の訓練日程決定
	9. 29	9月の防災訓練の振り返り、検証、防災備品チェック 次回の訓練日程決定
	10. 27	10月の防災訓練の振り返り、検証 次回の訓練日程決定
	11. 24	11月の防災訓練の振り返り、防災備品チェック 次回の訓練日程決定
	12. 22	12月の防災訓練の振り返り、検証 災害時感染マニュアル作成 次回の訓練日程決定
2022	3. 2	1月の火災訓練の振り返り、検証 防災グッズ購入検討 次回の訓練日程決定
	3. 23	2月の火災訓練の振り返り、検証 防災グッズ購入検討 次回の訓練日程決定

今年度前半は個別のケースについての検討が多かったが、後半については会議の在り方を根本から見直すことになった。この会議自体は生活の場を外部に託さざるを得ないケースが続き、それが高齢者であったということから高齢者の未来を考えるということで始まったが、検討していくと、法人内で見ることが出来るかどうかというのは高齢者であるかどうかということではなかった。人間的な問題、住環境の問題に行きつくのだが、それは「高齢者」ではなく「地域生活をしているすべての人」に当てはまるという話である。

この会議に関しては「法人全体に方向性を発信していく」「現場に動いてもらい、それを確認するチェック機能として動いていく」ということになった。現場のスタッフ、特に役職についていないスタッフについて、「親や周囲の人に触れる機会が少ないのではないか」「ケースの大きな動きに関して置き去りになっていないか(自分も関わっているんだという意識が持っているか)」ということが懸念された。現場スタッフが想いに触れる機会を作り、それぞれの担当ケースについてももう一歩踏み込んで取り組んでいけるように、この会議から発信していくことになった。来年度は会議メンバーに現場スタッフを増やすことで意識を持ってもらう機会の一つとしていく。

【開催日と協議した内容】

2021	4.15	近々生活の場を変えるであろうケースについての条件表の作成と、個別ケースの検討
	5.20	個別ケースの検討
	6.17	エンディングノート作成の割り振りと個別ケースの検討
	7.15	エンディングノートの進捗の確認と個別ケースの検討
	10.21	エンディングノートの確認と個別ケースの検討
2022	1.20	この会議の在り方について荒川理事長からの話。 ・個別ケースの検討やエンディングノートの作成は現場がやること。 この会は法人全体に方向性を示していくようなものにする。 ・この会から現場に発信していくこと、現場にやってもらうことの検討 ・高齢者という括りではなく、地域生活者という括りにする。
	2.17	今後家を出て生活をして行く必要がある、もうしくはそうなるであろう利用者を現場が洗い出しをする際に最低限聞き取る必要があるであろう項目の選定。
	3.24	・来年度に向けてこの会のメンバー入れ替えの検討 ・いかにして現場スタッフに意識をもってもらうかを検討

## 新型コロナウイルス感染症に伴うスタッフの就業取り扱い（内部規定）

① 染病

感染の原因	業務外の事由		業務にかかるとの事由		判断するうえでの留意点
	不要不急の本人の行動 ※不要不急の判断は法人内で協議	・ 本人の家庭内での接触 ※小学校等が臨時休業等により子どもの世話をする場合を含む	・ 利用者の家庭内での接触により、事業所で接触 ・ 他事業所のスタッフ・利用者が感染し、他利用者が併用して事業所で接触	・ 法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	
本人の状態					
本人が濃厚接触疑い者と濃厚接触疑い	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	①陽性者の行動と行動範囲（感染経路の推測）の確認 ②陽性者と接触者の関係性や接触度合い ・ ソーシャルディスタンスの確保は？ ・ 接触した時間は？ ・ マスクの着用は？
本人が濃厚接触者と濃厚接触疑い	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	法人内で協議《業務が基本》 ・ 隔離した環境で出勤 ・ 希望により欠勤または特別有給休暇	③陽性者と接触者が接触した環境 ・ 換気の頻度は？ ・ 接触者の防護の状況は？ ・ 双方の手指の消毒は？ ・ 他発症者の有無は？
本人が濃厚接触者（保健所/保健福祉センター特定）であり、PCR受検	特別有給休暇は、年間3日（2021.4.1～2022.3.31）を上限とする。		自宅待機、保健所・保健福祉センター・医療機関の指示 ※発症不能の状態なら傷病手当の対象	自宅待機、保健所・保健福祉センター・医療機関の指示 ※発症不能の状態なら傷病手当の対象	④本人が濃厚接触者として特定（保健所/保健福祉センター）されれば、14日間の外出自粛と健康観察

※感染拡大の状況や法制度により変更することがある

※そうそくの社が規定する新型コロナウイルスにかかる特別有給休暇は、年間3日（2021.4.1～2022.3.31）を上限とする。

※濃厚接触者とは、新型コロナウイルス感染症陽性者と、感染可能な時期（有症状者は発症日2日前以降、無症状者は陽性となった検体採取日以降）に濃厚接触（1メートル以内、15分以上、感染防御策なしに接触）のあったものをいいます。換気や空間、発生状況などを勘案し、保健所（又は保健福祉センター）が判断します。新型コロナウイルス感染症患者との接触があった方を濃厚接触者として、感染者との最終接触日の翌日から14日間外出を自粛し、健康観察などを行います。※大阪市HPより

社会福祉法人 そうそこの社 2021年度 スタッフ研修 《報告》

資料 ③

研修テーマ	対象者	2021												2022			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
グループワーク (そうそこの社の歴史、倫理綱領の読み合わせ)	全員	●															
講演： 障害者福祉に関する基本的な考え方① 講師： 関 宏之さん(日本ライトハウスマ理事)	全員		●														
講演： てんかんに関する講座2021年版 講師： 岡崎 伸 さん(大阪市立総合医療センター小児医療センター 小児神経内科副部長)	全員			●													
講演： 発達障害について 講師： 井上 芳子 氏(大阪市発達障がい者支援センター エイルム おおさか所長)	全員				●												
【人権研修】講演：「親として思うこと」 講師： 澤田 敬代 さん、福本 弘子 さん	全員					●											
講演： 行動療法について 講師： 加藤 美朗 さん(関西国際福祉大学)	全員						●										
講演： 創立20周年記念事業講演会・シンポジウム 講師： 関 正樹さん(大救病院 医師) 高岡 健 さん(岐阜県立希望が丘子ども医療福祉センター)	全員							●									
本谷 研司 さん(阿星山診療所 医師)																	
講演： 障害者福祉に関する基本的な考え方② 講師： 関 宏之さん(日本ライトハウスマ理事)	全員								●								
講演： 累犯障害者の地域移行について 講師： 山田 真紀子 さん(大阪府地域生活定着支援センター 所長)	全員									●							
グループワーク (今年度の振り返り)	全員										●						
中止	全員											●					
講演： 口腔ケア5年の軌跡 講師： 野本 綾子 氏(合同会社 Base One 代表)	全員																●
新人研修(随時)	該当者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
登録ヘルパー研修	該当者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪市障害児・者施設連絡協議会主催(随時)	希望者																
NPO法人地域自立支援推進協議会JOTO主催(随時)	希望者																
●研修日は毎月第1土曜日とする。外部講師による講演についてはレポートを提出する																	